

**令和4年度（令和3年度対象）**

**教育に関する事務の管理及び執行の状況  
の点検及び評価の報告書**

**令和4年8月**

**音更町教育委員会**

# 目 次

## はじめに

1 点検及び評価の趣旨 .....	1
2 点検及び評価の対象 .....	1
3 点検及び評価の方法 .....	1

## I 点検及び評価の結果

### 1 教育委員会の活動状況

(1) 会議の状況 .....	2
(2) 規則等の制定・改廃の状況 .....	6
(3) 表彰の状況 .....	7
(4) 研修会等への参加の状況 .....	9
(5) 学校訪問の状況 .....	9
(6) 町民への情報提供の状況 .....	10
(7) 教育委員会の組織 .....	11

### 2 重点的な評価

(1) 確かな学力の向上 .....	12
(2) 健やかな体の育成 .....	23
(3) 豊かな心の育成 .....	28

### 3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

(1) 文教対策 .....	31
(2) 社会教育の振興 .....	37
(3) 社会体育の振興 .....	44

### 4 昨年度の学識経験者からの主な意見と対応状況 .....

### 47

## II 学識経験者の意見 .....

### 57

## はじめに

### 1 点検及び評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出することとなっています。

また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとなっています。

音更町教育委員会では、これまで各種計画に基づき効果的な教育行政を推進してきましたが、法に基づく点検及び評価を行い、その結果を公表することで、町民の皆様に教育に関する事務の管理及び執行の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開等に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図っていきます。

### 2 点検及び評価の対象

令和3年度の教育委員会の活動状況のほか、令和3年度教育行政執行方針に位置付けられて実施した施策・事業等を点検及び評価の対象としています。

また、特に町民の方から関心が高いと思われる「確かな学力の向上」、「健やかな体の育成」、「豊かな心の育成」について、現状や課題、今後の方向性等に関する点検・評価を行っています。

### 3 点検及び評価の方法

教育委員会が行った点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取組に向けた活用を図るため、教育に関し学識経験を有する方から点検及び評価に関する意見や助言をいただきました。

学識経験者 佐藤英晶氏 (帯広大谷短期大学教授)  
堀光生氏 (元中学校校長)

## I 点検及び評価の結果

### 1 教育委員会の活動状況

#### (1) 会議の状況

教育委員会の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び音更町教育委員会規則に基づき、教育長と4人の教育委員会委員が教育行政に関する基本的な方針の決定や教育委員会規則の制定など、教育に関する様々な議題について審議します。

令和3年度は、令和2年度同様に新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、次とおり会議を開催しており、それぞれの会議において、事務局から付議案件の提案理由や説明を行った後、教育委員会委員の活発な質疑、審議を経て、いずれも決定・了承されています。

事務局では、教育委員会の会議の活性化と十分な審議を実施するため、各委員に議案・資料等の事前説明を行うなど、審議がより活発なものとなるよう配慮しています。

また、教育委員会会議の前に委員相互の意見交換をする場を設け（必要に応じ事務局も入ります。）、日常の情報交流を図るとともに、教育委員会会議において委員の意見を反映させるため、付議案件以外に意見を提案する場を設けています。

そのほか、町長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育の実情やるべき姿を共有することを目的として開催している総合教育会議では、教育を行うための諸条件の整備など教育を取り巻く環境の変化や課題について協議・調整を行っており、町の施策との調和を図りつつ教育行政の様々な課題について効率的に取り組んでいます。

今後も、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、学校訪問などの活動を充実させながら、積極的に教育行政を推進していく必要があると考えます。

#### ◎教育委員会会議（定例会・臨時会）

期日	付議案件
【定例会】 R3.4.22 [11:20～12:10]	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 教育委員会事務報告</li><li>・ 小学校卒業式及び小中学校入学式の実施状況について</li></ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 音更町教育研究所所員の委嘱について</li><li>・ 音更町学校評議員の委嘱について</li><li>・ 音更町学校運営協議会委員の任命について</li><li>・ 音更町社会教育委員及び音更町公民館運営審議会委員の委嘱について</li><li>・ 音更町文化財保護審議会委員の委嘱について</li><li>・ 音更町図書館協議会委員の委嘱について</li><li>・ 音更町スポーツ推進委員の委嘱について</li><li>・ 音更町教育委員会事務局職員の人事について</li></ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 教育委員会の学校訪問について</li></ul>

期日	付議案件
【臨時会】 R3. 4. 30 持ち回り会議	(議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町教育委員会行政組織規則等の一部を改正する規則案</li> <li>・ 音更町教育委員会事務局処務規程及び音更町教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令案</li> </ul>
【定例会】 R3. 5. 27 [14:00～15:00]	(報告) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> <li>・ 音更町第4次生涯学習推進基本構想（素案）について</li> </ul> (議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町奨学資金審議会委員の委嘱について</li> <li>・ 音更町青少年対策委員会委員の委嘱について</li> </ul> (協議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年度補正予算（案）について</li> <li>・ 教育委員会の学校訪問について</li> <li>・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について</li> </ul>
【臨時会】 R3. 6. 10 持ち回り会議	(議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事請負契約の締結について</li> </ul>
【定例会】 R3. 6. 18 [14:00～14:40]	(報告) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> <li>・ 音更町第8次社会教育中期計画の進捗状況について</li> </ul> (議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町立学校職員の処分の内申について</li> <li>・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する評価委員の選任について</li> </ul> (協議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書について</li> </ul>
【臨時会】 R3. 7. 9 持ち回り会議	(議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町学校運営協議会委員の任命について</li> </ul>
【定例会】 R3. 7. 15 [13:40～14:35]	(報告) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> <li>・ 令和3年度教科書展示会での意見について</li> </ul> (議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町奨学資金支給者の決定について</li> <li>・ 音更町いじめ問題等対策委員会委員の委嘱について</li> </ul> (協議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会の学校訪問について</li> <li>・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書について</li> </ul>

期日	付議案件
【定例会】 R3. 8. 26 [13:55～15:00]	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書について</li> <li>・ 押印等を求める手続の見直し等に伴う関係規則の整理に関する規則案</li> <li>・ 令和4年度から使用する小学校用及び中学校用教科用図書の採択について</li> <li>・ 音更町教育支援委員会委員の委嘱について</li> <li>・ 令和4年度北海道公立学校校長採用候補者の推薦について</li> </ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町学校整備基金条例案</li> <li>・ 令和3年度補正予算（案）について</li> </ul>
【定例会】 R3. 9. 21 [14:05～15:00]	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> <li>・ 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年度北海道公立学校教頭昇任候補者及び北海道公立学校主幹教諭昇任候補者の推薦について</li> </ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年度以降の成人式について</li> <li>・ 教育委員会学校訪問について</li> </ul>
【定例会】 R3. 10. 15 [13:50～14:30]	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> <li>・ 音更町第4次生涯学習推進基本構想について</li> <li>・ おとふけ「教育を考える日」記念フェスタの進捗状況について</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町第8次社会教育中期計画について</li> <li>・ 音更町適応指導教室設置要綱の一部改正について</li> <li>・ 音更町奨学資金支給者の決定について</li> <li>・ 令和3年度音更町文化奨励賞等表彰者の決定について</li> </ul>
【定例会】 R3. 11. 18 [14:00～15:20]	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会事務報告</li> </ul> <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音更町子どもの読書活動推進計画（第3期）について</li> </ul> <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年度補正予算（案）について</li> <li>・ 音更町職員定数条例の一部改正について</li> </ul>
【臨時会】 R3. 12. 8 持ち回り会議	<p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年度補正予算（案）について</li> </ul>

期日	付議案件
【定例会】 R3. 12. 23 [14:00～14:50]	(報告) <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会事務報告</li> <li>北海道教育委員会による全国学力・学習状況調査の結果公表について</li> <li>おとふけ「教育を考える日」記念フェスタの開催結果について</li> </ul> (協議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度教育委員会予算編成に伴う主要事業の概要について</li> </ul>
【臨時会】 R3. 12. 27 持ち回り会議	(議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>工事請負契約の締結について</li> </ul>
【定例会】 R4. 1. 27 [14:15～14:50]	(報告) <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会事務報告</li> </ul> (議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>年末年始の休日の変更に伴う関係規則の整理に関する規則案</li> <li>令和4年度全国学力・学習状況調査の実施について</li> <li>音更町子どもの読書活動推進計画（第3期）について</li> <li>音更町児童生徒文化・スポーツ賞選考委員会委員の委嘱について</li> </ul>
【定例会】 R4. 2. 16 [10:10～12:00]	(報告) <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会事務報告</li> </ul> (議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>音更町立学校における働き方改革推進プラン（第2期）について</li> <li>令和3年度音更町スポーツ賞等被表彰者の決定について</li> <li>教職員人事の内申について</li> </ul> (協議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度補正予算（案）について</li> <li>令和4年度教育委員会予算（案）及び主要事業について</li> <li>令和4年度教育行政執行方針（案）について</li> </ul>
【定例会】 R4. 3. 22 [18:00～19:15]	(報告) <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会事務報告</li> <li>中学校卒業式の実施状況について</li> <li>令和3年度いじめに関する実態調査報告について</li> <li>令和3年度全国学力・学習状況調査結果の分析について</li> <li>音更町生涯学習推進中期計画について</li> </ul> (議案) <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会を設置する対象学校について</li> <li>音更町適応指導教室設置要綱の一部を改正する要綱案</li> <li>音更町立小中学校体育施設の開放に関する規則の一部を改正する規則案</li> <li>音更町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則案</li> <li>音更町教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令案</li> <li>教職員人事の内申について</li> <li>音更町教育委員会事務局職員の人事について</li> </ul>

◎総合教育会議

期 日	付 議 案 件
R4. 2. 18 [13:30~14:40]	(協議案) ・ 音更町教育大綱について ・ 郷土の歴史と文化の学びの充実に向けて

(2) 規則等の制定・改廃の状況

令和3年度に制定・改廃された教育委員会の規則・訓令及び教育関係の条例は次のとおりです。

ア 条例

題 名	公布年月日	施行年月日
・ 音更町学校整備基金条例	R3. 10. 1	R3. 10. 1
・ 音更町職員定数条例の一部を改正する条例	R3. 12. 16	R4. 4. 1

イ 規則

題 名	公布年月日	施行年月日
・ 音更町教育委員会行政組織規則等の一部を改正する規則	R3. 4. 30	R3. 5. 1
・ 押印等を求める手続の見直し等に伴う関係規則の整理に関する規則案	R3. 8. 26	R3. 9. 1
・ 年末年始の休日の変更に伴う関係規則の整理に関する規則	R4. 1. 27	R4. 4. 1
・ 音更町立小中学校体育施設の開放に関する規則の一部を改正する規則	R4. 3. 22	R4. 4. 1
・ 音更町教育委員会行政組織規則等の一部を改正する規則	R4. 3. 22	R4. 4. 1

ウ 訓令

題 名	公布年月日	施行年月日
・ 音更町教育委員会事務局処務規程及び音更町教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令	R3. 4. 30	R3. 5. 1
・ 音更町教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令	R4. 3. 22	R4. 4. 1

(3) 表彰の状況

ア 音更町文化奨励賞等

[音更町の文化の高揚と発展に寄与した個人又は団体を表彰]

- ① 文化奨励賞：(科学・芸術・教育等を通じ、音更町の文化の進展に著しく貢献した個人又は団体を表彰)

	氏 名	表 彰 事 由
個人	吉本 みどり	平成6年に千穂充会を発足してから現在まで会長を務めている。福祉施設や老人クラブへの慰問、町内で開かれる祭りで日本舞踊を披露するなど日本舞踊の普及に貢献された。さらに、平成30年度から音更町文化協会副会長として音更町の文化の発展に大きく貢献された。
個人	故 鈴木 正敏	昭和49年、十勝川平原太鼓保存会発足から所属し、町内福祉施設への慰問のほか、成人式や町内外のイベントに出演し、地域活動に貢献された。また、平成7年から会長を務め、会の運営に尽力されるとともに、保育園などにおいて太鼓指導を行い、太鼓文化の普及に大きく貢献された。
個人	太田 京伽	毎日新聞社主催の第74回全日本学生音楽コンクール北海道大会本選フルート部門・高校の部において優勝し、優秀な成績を収めた。
団体	友芳会 代表 前川 典子 昭和50年4月設立	昭和50年に会を発足し、舞踊の技術向上に努めるとともに、全国の民謡などに年齢を問わない分かりやすい振りをつけた民俗舞踊を音更町文化祭や神社の祭典など様々なイベントで披露した。また、音更音頭の保存活動に尽力され、地域文化活動の推進に大きく貢献された。
団体	りりい三絃会 代表 川嶋 フサ子 昭和51年1月設立	昭和51年に会を発足し、民謡や三味線を通じて会員相互の親睦と技量の向上を図るとともに、町内福祉施設あさひ苑及びらんらんとの交流は45年以上続け、地域活動に寄与された。また、地域民謡の普及、音更音頭の保存活動に尽力され、伝統芸能の伝承に大きく貢献された。

- ② 文化奨励特別賞：(音更町の文化の振興発展に貢献し、その功績が特に顕著な個人又は団体を表彰)

該当なし

イ 音更町スポーツ賞等

[音更町のスポーツの分野において優秀な成績を収めた者及びスポーツの振興に寄与した個人又は団体を表彰]

① スポーツ賞 (全国・全道規模の大会で優秀な成績・記録を収めた個人又は団体)

【個人】

氏名	年齢	所属	種目
上谷 将太	18	白樺学園高等学校	バスケットボール
安達 美宇	12	木野東小学校	軟式野球
可瀬 明璃	12	木野東小学校	軟式野球
印銀 琴羽	11	鈴蘭小学校	軟式野球
木下 瑠日	11	鈴蘭小学校	軟式野球
鴨川 昂政	18	帶広農業高等学校	硬式野球
貞廣 大聖	18	帶広農業高等学校	硬式野球
得地 佳来	18	帶広農業高等学校	硬式野球
武藤 大斗	18	帶広農業高等学校	硬式野球
佐藤 敦	15	下音更中学校	スピードスケート
久保 香暢	15	下音更中学校	ソフトボール
水島 凜	15	下音更中学校	ソフトボール
田川 穂佳	14	下音更中学校	ソフトボール

② スポーツ奨励賞 (全国・全道規模の大会で上位入賞、十勝大会で優秀な成績)

【個人】

氏名	年齢	所属	種目
関 雄也	16	白樺学園高等学校	陸上
水口 浩斗	18	池田高等学校	スピードスケート

【団体】

団体名	所属	種目
音高等学校剣道部 (7名)	音高等学校	剣道

③ スポーツ功労賞 (本町におけるスポーツの普及振興に貢献のあった個人又は団体)

該当者なし

#### (4) 研修会等への参加の状況

教育委員会では、各種研修会に参加し、他市町村教育委員会との情報交換や、研修に努めているほか、教育行政に関する調査・研究を行っています。

令和3年度は、令和2年度と同じく新型コロナウイルス感染症対策により予定されていた研修会等のほとんどが中止となりましたが、今後とも積極的に研修会等に参加し、教育を巡る現状や課題について学ぶとともに、教育委員の役割について理解を深めていきます。

年月日	場 所	研 修 会 等	参加者
R3. 11. 16	ZOOM 会議	十勝管内市町村教育委員会教育委員研修会	5名

#### (5) 学校訪問の状況

##### ア 小中学校の訪問

教育委員会では、教育長、教育委員全員と事務局職員合わせて8名で町内全小中学校を訪問し、それぞれの学校の取組について実情把握に努めています。(令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策として1校当たり1時間程度)

令和3年度の重点テーマは「新型コロナウイルス感染症を契機とする学習・学校生活の変化について」です。

例年は、校長から学校経営の重点及び懸案事項の説明を受けた後、授業参観を行い、子どもたちの学びの様子を見学しますが、令和3年度は3密を防ぐ観点から、授業参観は原則実施せず、リモートにより授業の様子を見学しました。

その後、重点テーマに関する学校の取組みを中心に校長より説明を受け、校長・教頭等と意見交換を行うことで、学校運営・教育環境等様々な点について現状と課題を把握し、より良い教育環境の整備に努めています。また、本町は自校給食を行っていることから、この学校訪問の際に、一部の学校で学校給食の試食も行っています。

そのほか、各学校におけるいじめや不登校の状況等についても意見交換を行うとともに、教職員と教育委員の顔合わせとして、職員室において教育長からの挨拶と各教育委員の自己紹介等を行い、各学校との交流を図っています。

訪問年月日	訪 問 学 校 名
R3. 7. 1	駒場小学校、西中音更小学校、駒場中学校
R3. 7. 15	東士幌小学校、柳町小学校
R3. 8. 19	東士狩小学校、緑陽台小学校、緑南中学校、共栄中学校
R3. 8. 26	下士幌小学校、木野東小学校
R3. 10. 20	下音更小学校、下音更中学校
R3. 10. 28	音更小学校、鈴蘭小学校、音更中学校

##### イ 北海道音更高等学校（以下「音更高校」）の訪問

本町唯一の高校である音更高校は、これまで地域を担う人材を多く輩出し、町と連携した生涯学習プログラムの推進や地域社会と連携した教育、地域活性化に寄与する活動を展開しています。今後も地域に開かれた特色のある高校づくりを継続し、入学希望者増につながる取組を支援していくため、意見交換会を令和3年12月20日に開催し、音更高校の現状や課題、今後の展望等について情報共有を行いました。

(各種学校行事等)

例年は、小中学校の入学式・卒業式に教育長をはじめ各教育委員が出席しているほか、運動会・体育祭への訪問等を行っていますが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策により密をさけるため、学校行事の規模縮小の対応をとったことから出席及び訪問は行いませんでした。

(6) 町民への情報提供の状況

教育委員会では、教育に関する制度や手続、行事等の周知を図るために、様々な情報を提供しています。

今後もホームページや町広報紙等を活用し、情報提供の方法を工夫しながら、より一層わかりやすく様々な情報を提供していく必要があると考えています。

ア 広報紙の活用

毎月発行している広報「おとふけ」で教育に関する各種情報の提供に努めました。

(主な掲載情報)

- ・「生涯学習のまど」OOCオープンカレッジ等の各種講座の紹介
- ・「図書館通信」新着・おすすめ図書の紹介、図書館行事のお知らせ
- ・その他（小規模特認校の紹介、各種助成制度の案内等）

イ ホームページの活用

ホームページの管理・運営を通じて、教育委員会の活動を町民にお知らせしています。

(主な掲載情報)

- ・音更町の教育目標
- ・音更町の教育行政執行方針
- ・小中学校ホームページ
- ・学校教育関係（区域外就学、就学援助等）
- ・社会教育関係（施設の紹介・空き状況/予約、生涯学習等）
- ・図書館（蔵書検索）
- ・教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書
- ・総合教育会議の会議結果（要旨）
- ・定例の教育委員会会議の会議結果（要旨）
- ・社会教育委員協議会等の審議会の会議結果（要旨）

(7) 教育委員会の組織

教育委員会

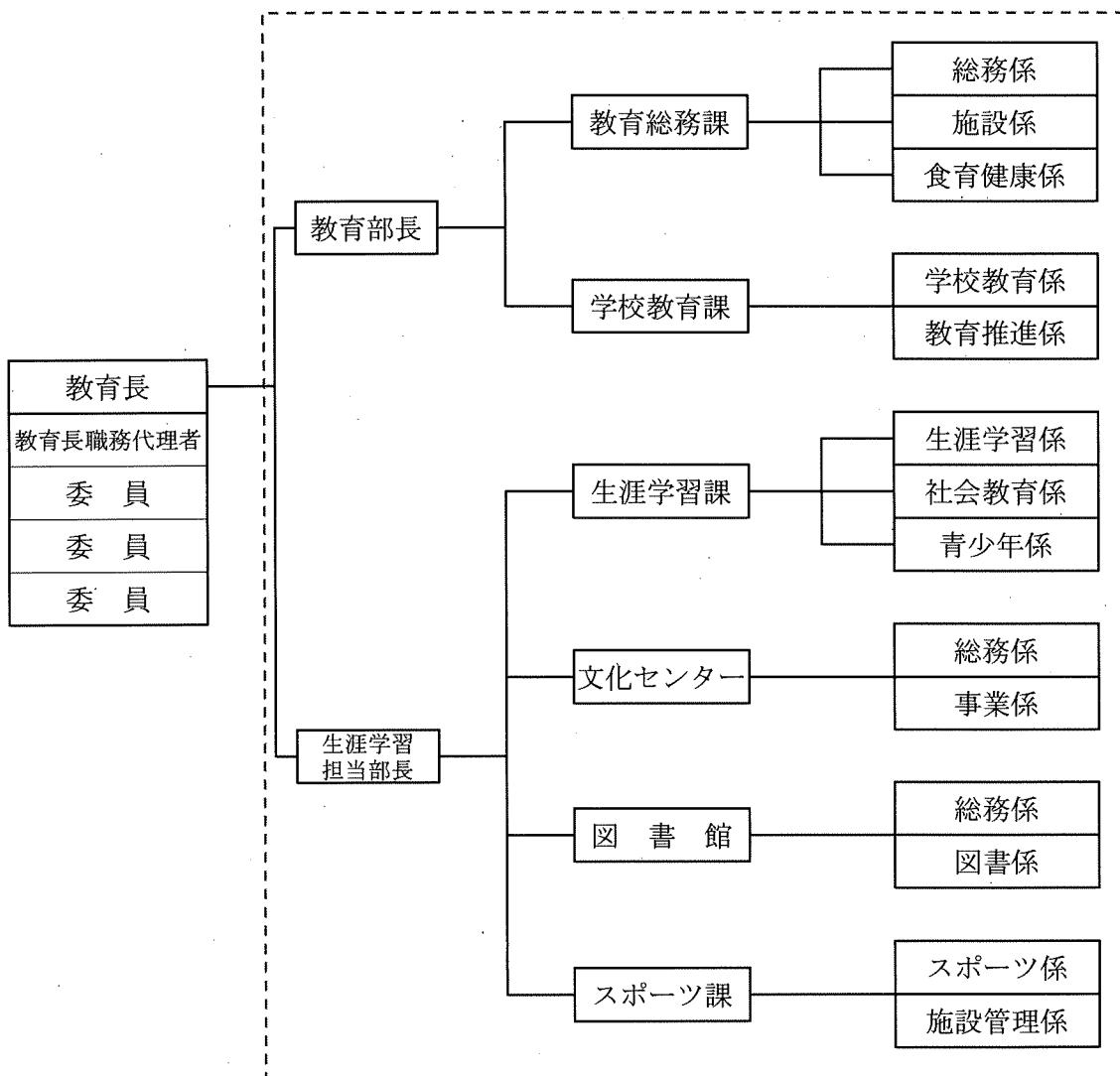
(令和4年4月1日現在)

職名	氏名	就任日	期数	現任期満了日
教育長	福地 隆	令和2年4月1日	2期目	令和6年3月31日
教育長職務代理者	田中 義博	平成16年11月2日	5期目	令和6年11月1日
委員	種川 健	平成27年11月5日	2期目	令和5年11月4日
委員	川井 麗子	平成28年11月2日	2期目	令和4年11月1日
委員	高橋 敬貴	令和4年1月20日	1期目	令和8年1月19日

教育委員会の組織

(令和4年4月1日現在)

事務局



## 2 重点的な評価

### (1) 確かな学力の向上

音更町教育委員会では、教育行政執行方針において、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身につけ、それらを活用できる学力を育むことが重要であると捉え、学校と家庭が連携して、「生きる力」の基盤となる確かな学力の向上を推進していくこととしています。その取組を進める上で、子どもの学力の傾向を把握して課題を捉えるために、毎年度、全国学力・学習状況調査に参加しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症や休校の影響などを考慮し、全国学力・学習状況調査が実施されなかつたため、令和3年度は2年ぶりの調査となりましたが、本町も全国学力・学習状況調査に参加し、小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語、算数、数学について全数調査を行っております。さらに児童・生徒質問紙についてのクロス集計も行い、その分析結果を活用しています。

#### ① 児童生徒の学力の現状と課題

##### 令和3年度調査の分析・考察

###### 【小学校】

###### <総評>

国語・算数ともに全国・全道平均を下回る結果となった。国語は全国平均より3.7ポイント低く、算数は全国平均より5.2ポイント低かった。

令和元年度は、国語は全国平均をやや上回り、算数は全国平均に近い結果となっていたが、令和3年度は落ち込みが見られる結果となった。

###### <学習指導要領の内容・領域・評価の観点・問題形式>

- 国語は、学習指導要領の内容別では「知識及び技能」における「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均を若干下回っている。また、「思考力、判断力、表現力等」における「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、どれも全国平均より5ポイント以上低くなってしまっており、特に「書くこと」は全国平均より8.8ポイント低かった。
- 国語の評価の観点別正答率では、「思考・判断・表現」が全国平均より7ポイント低かった。
- 国語は、問題別に見ると、「文章中の語句と同じ使い方として適切なものを選択する問題」の正答率が高く、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題」の正答率が低かった。また、「文章の下書きを詳しく書き直す問題」の無回答率が高かった。
- 算数は、全領域・評価の観点において全国平均を下回っている。その中で、一番低かったのは、「図形」の領域で全国平均より8.4ポイント低かった。
- 算数は、問題別に見ると、「棒グラフから、数量を読み取る問題」の正答率が高く、「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く問題」の正答率が低かった。また、「帶グラフから、割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く問題」の無回答率が高かった。

###### 【中学校】

###### <総評>

国語・数学ともに全国平均を上回る結果となった。国語は全国平均より1.4ポイント高く、数学は全国平均より1.8ポイント高かった。

令和3年度は令和元年度同様に、国語・数学ともに全国平均を上回っており、安定した傾向が続いている。

<学習指導要領の領域・評価の観点・問題形式>

- 国語は、学習指導要領の領域別では、「読むこと」が全国・全道平均より低かったものの、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全国・全道平均を上回った。
- 国語の評価の観点別正答率では、「話す・聞く能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」において全国平均を上回った。
- 国語は、問題別に見ると、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつという趣旨の記述式問題」で正答率が全国平均を 7.3 ポイント下回った。
- 数学は、学習指導要領の領域別では、「数と式」「図形」「関数」が全国平均を上回り、「図形」では 3.7 ポイント上回ったが、「資料の活用」では、全国平均をわずかに下回った。
- 数学の評価の観点別正答率では、「数学的な見方や考え方」「数量や図形などについての知識・理解」において全国平均を上回った。
- 数学は、問題別に見ると、「整式の加法と減法の計算をする問題」が全国平均より 2.5 ポイント低く、「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現する問題」は全国平均より 8.2 ポイント高かった。また、記述式の問題であっても正答率は全国平均を上回っている。

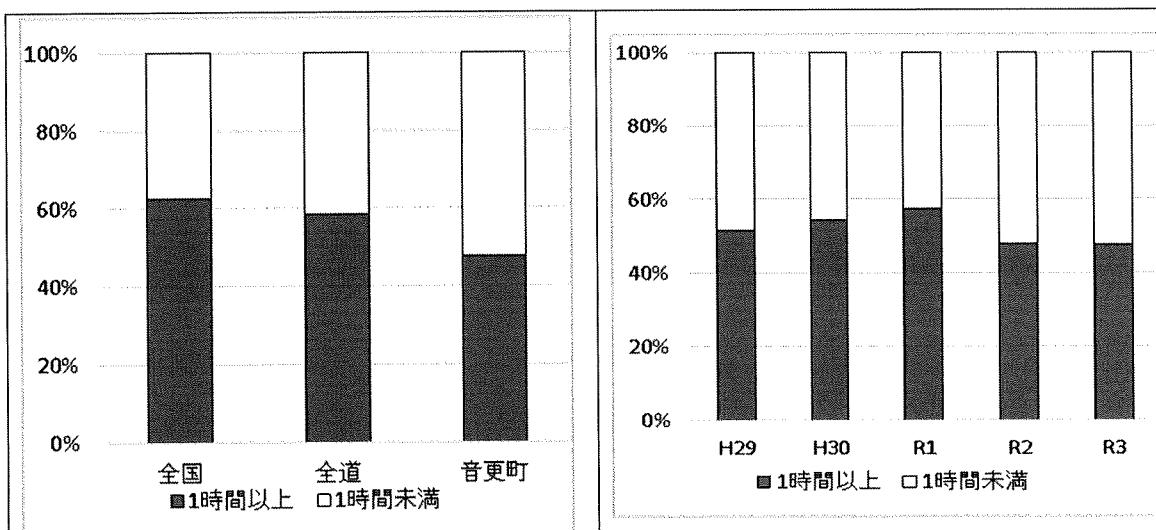
## 【児童・生徒質問紙】

- 1 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

<小学校>

【令和3年度】

【経年変化】

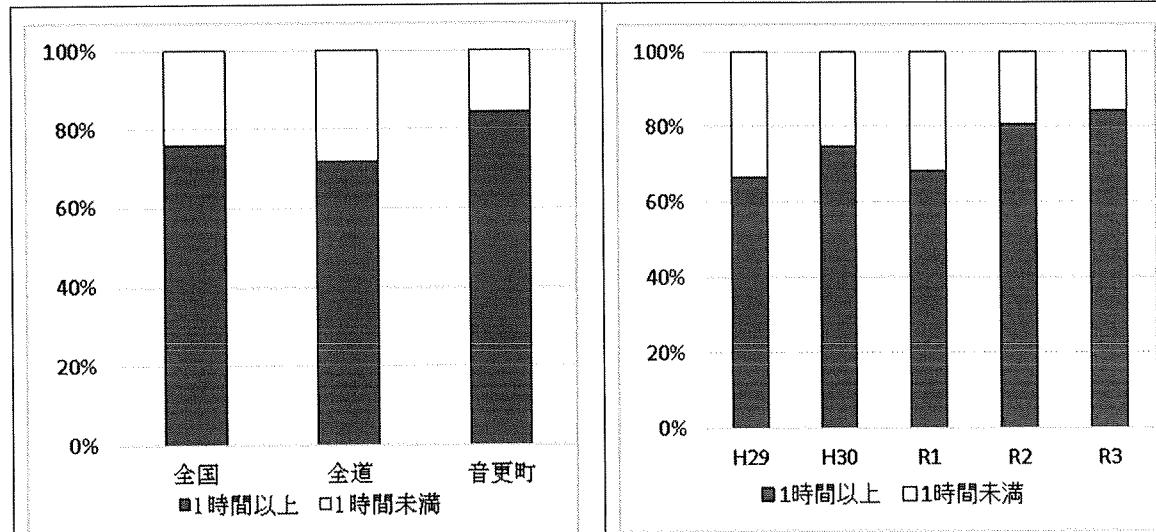


「1時間以上勉強している」という回答が半数を若干下回っている。経年比較では、「1時間以上勉強している」という回答は徐々に増えてきていたが、令和2年度に減少に転じ、今年度も昨年とほぼ同様の結果となった。なお、音更町6年生児童の34.5%が、「30分以上、1時間より少ない」と回答している。各学校では、授業と連動した家庭学習の取組を進めるとともに、タブレット端末を効果的に活用した家庭学習の取組も求められる。

<中学校>

【令和3年度】

【経年変化】



全体の84.4%が「1時間以上勉強をしている」と回答している。また、全体の17.3%が「3時間以上勉強をしている」と回答しており、全国・全道平均を上回った。経年比較では、「1時間以上勉強をしている」と回答した割合は昨年より3.7ポイント増え、家庭での学習習慣の定着は上向き傾向にある。更なる学習習慣の定着に向けて、自分で計画的に学習できるよう指導する必要がある。

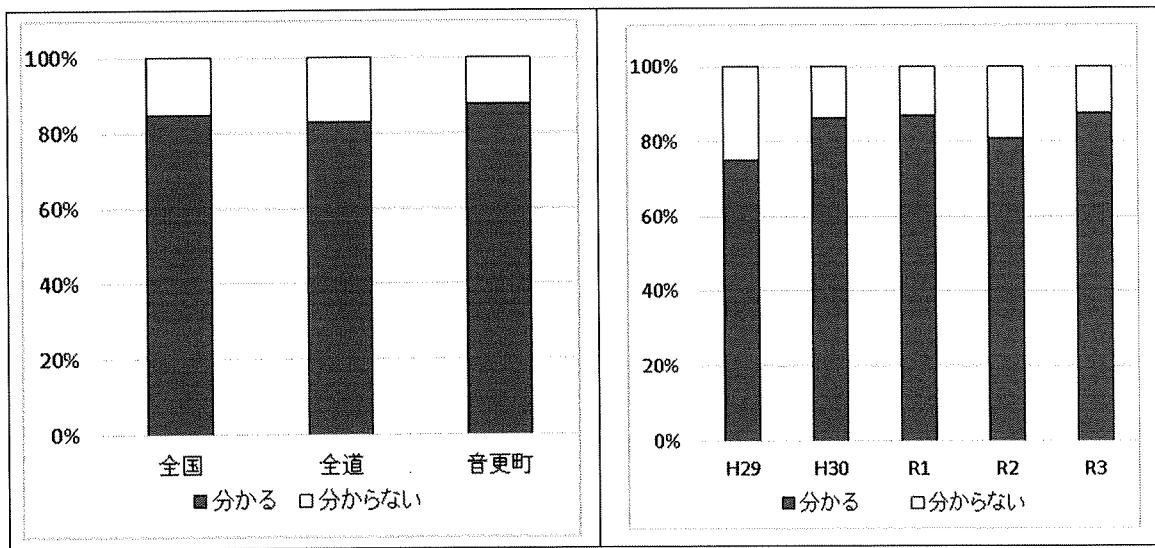
2 算数・数学の授業の内容は、よく分かりますか

※グラフの「分かる」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和3年度】

【経年変化】

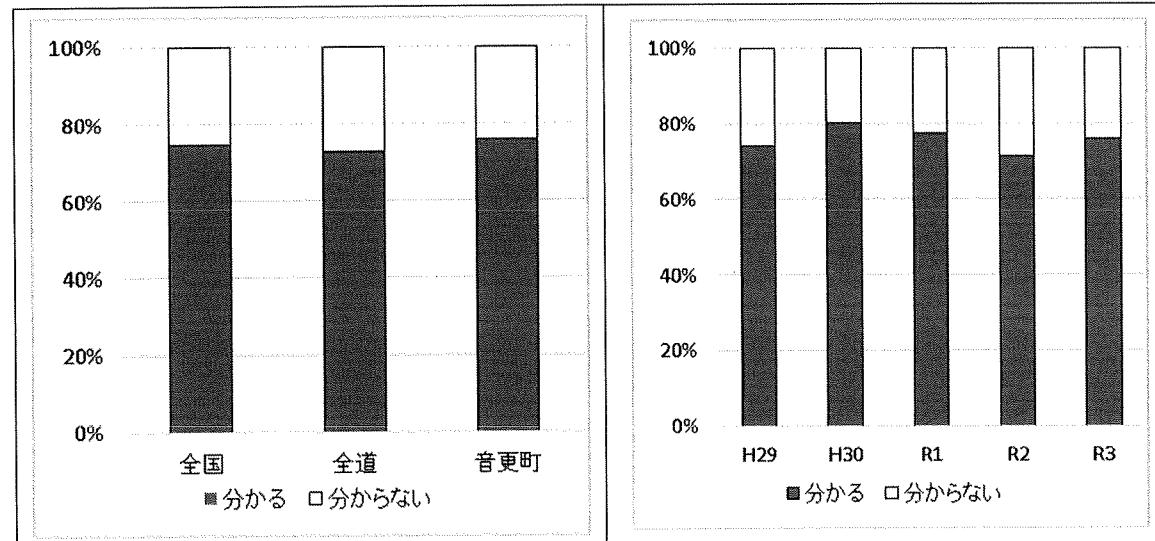


「分かる」と回答した割合は全国平均を3ポイント、全道平均を4.8ポイント上回った。経年比較では、H30年度から「分かる」の回答率が80%を超えており、今年度は87%を超える高い水準であった。しかし、全国学力・学習状況調査の結果は全国平均を下回っていることから、各学校では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める必要がある。

<中学校>

【令和3年度】

【経年変化】



「分かる」と回答した割合は、全国平均を1.5ポイント、全道平均を3.7ポイント上回った。「分からない」と回答した中では「どちらかといえば、当てはまらない」という回答率は全国平均より1.3ポイント高いものの、「当てはまらない」という回答率は全国平均より2.6ポイント低い結果である。経年比較では「分かる」の回答率が76.1%となり、昨年を4.6ポイント上回った。各学校では、より一層分かりやすい授業を目指し、学習課題の明示とまとめ・振り返りの時間の確保を徹底するとともに、タブレット端末などICT機器の有効活用を研究する必要がある。

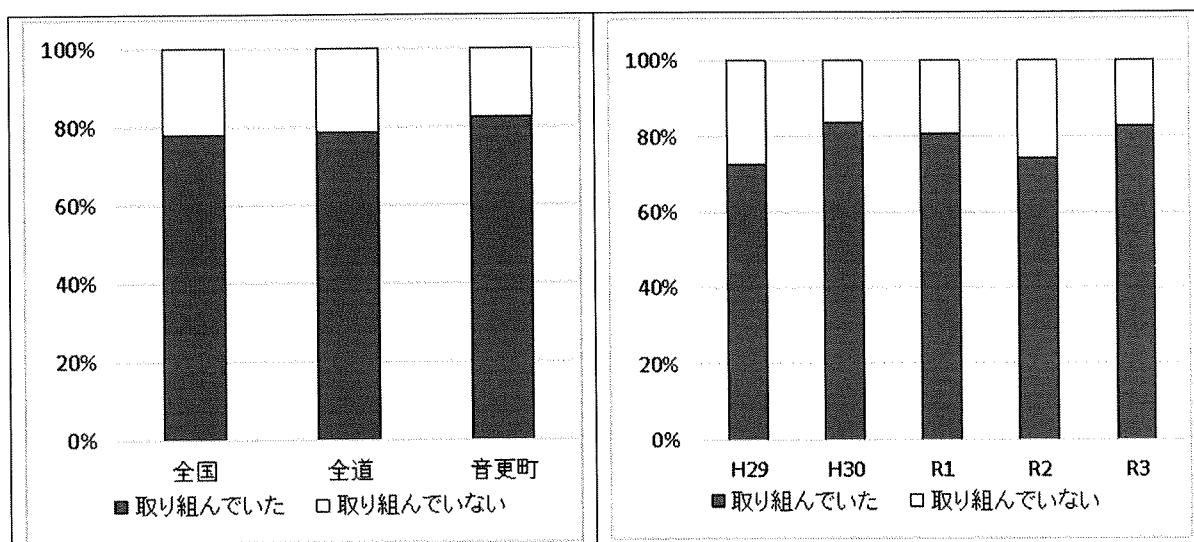
3 昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

※グラフの「取り組んでいた」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和3年度】

【経年変化】

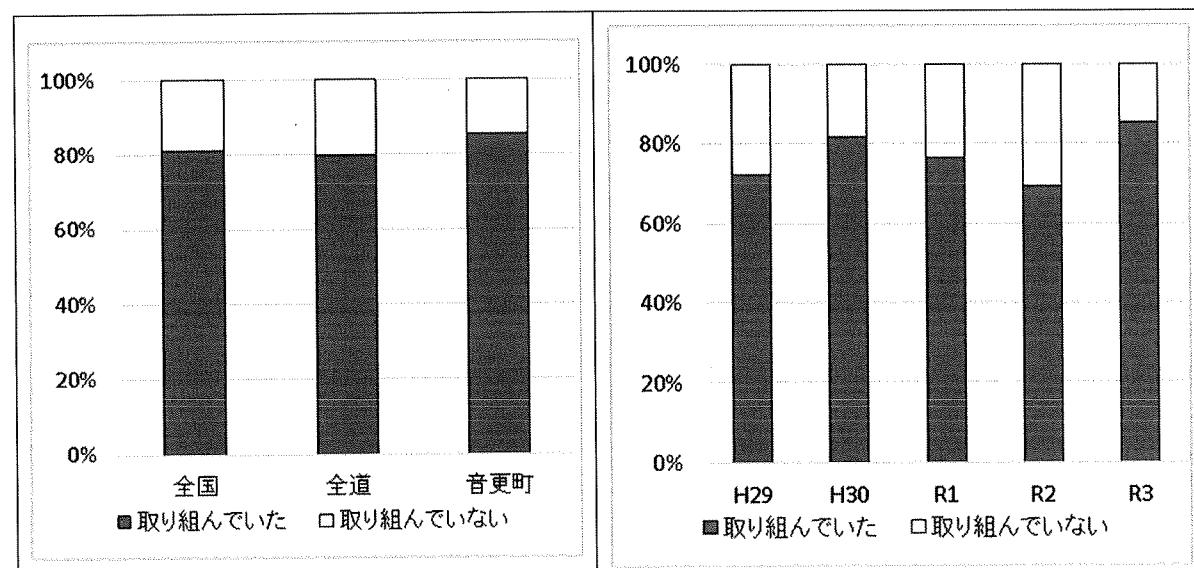


「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した割合は、全国平均を4.5ポイント、全道平均を4ポイント上回った。経年比較では、「取り組んでいた」の回答率がH30年度から低下傾向にあったが、今年度は82.7%と高い水準であった。個々の児童に合った学習教材や学習方法を工夫することで、児童が、より一層、主体的に学習できるようになることが望まれる。

<中学校>

【令和3年度】

【経年変化】



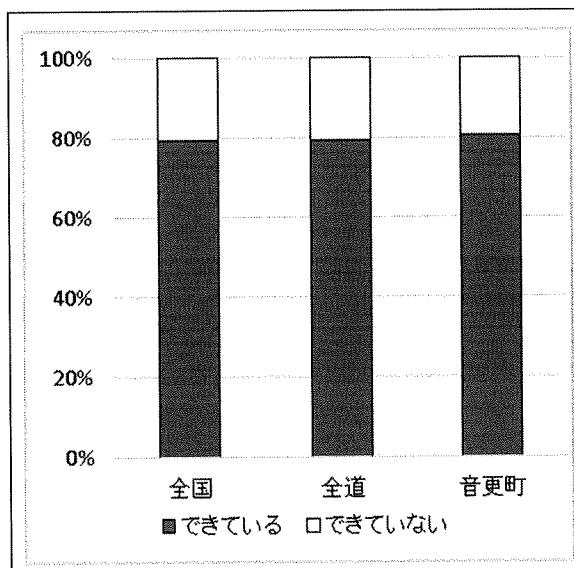
「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した割合は、全国平均を4.4ポイント、全道平均を5.5ポイント上回っている。経年比較では、「取り組んでいた」の回答率が昨年を16ポイント上回り、85%を超える高い水準であった。小学校同様、個に応じた学習教材や学習方法を工夫するとともに、今後も生徒が主体的に学習に取り組めるよう授業改善に努める必要がある。

4 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

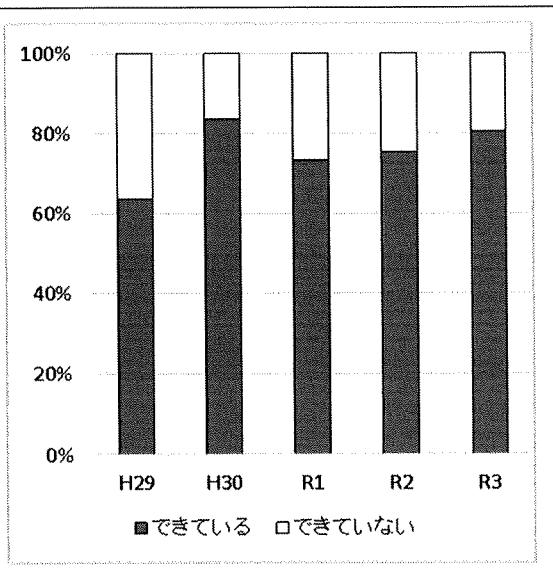
※グラフの「できている」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和3年度】



【経年変化】

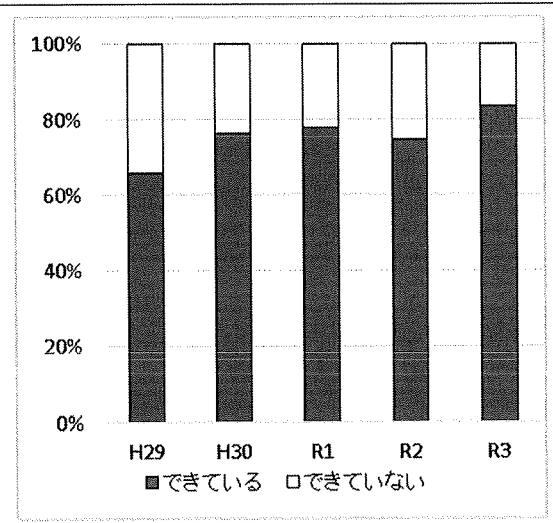
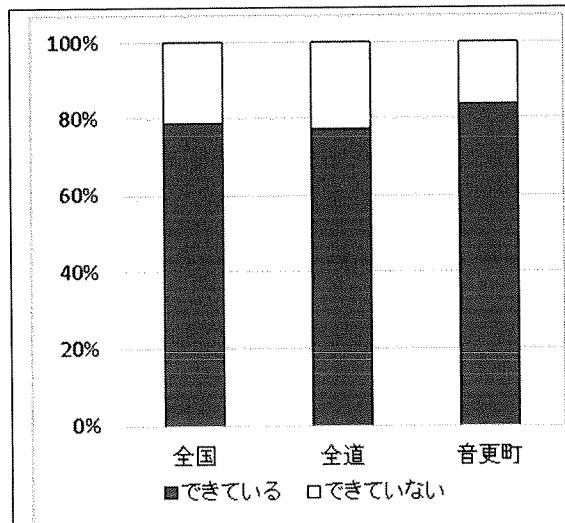


「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合は、全国・全道平均をともに1.3 ポイント上回った。経年比較では、昨年を4.7 ポイント上回っており、80%に達している。タブレット端末を活用し、各自の意見を交流する活動が増えており、対話的・協働的な学習が活発に行われている。

<中学校>

【令和3年度】

【経年変化】



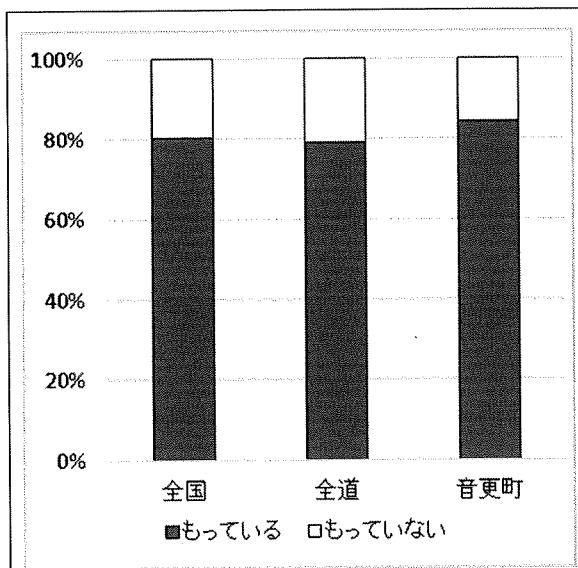
「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合は83%で、全国平均を5.2 ポイント、全道平均を6.7 ポイント上回った。経年比較では、「できている」の回答率がH30 年度から徐々に上昇してきている。R2 年度は前年より若干下回ったものの、今年度は昨年を8.4 ポイント上回る結果となった。生徒の自己評価は高いが、タブレット端末を活用した話し合い活動の充実が今後の課題である。

## 5 将来の夢や目標をもっていますか。

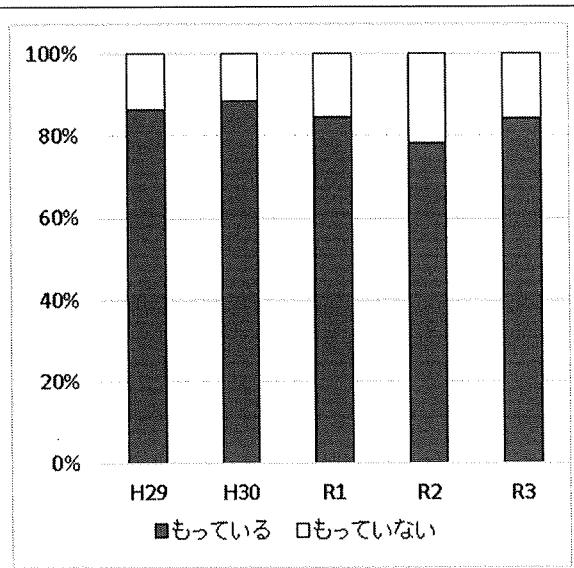
※グラフの「もっている」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和3年度】



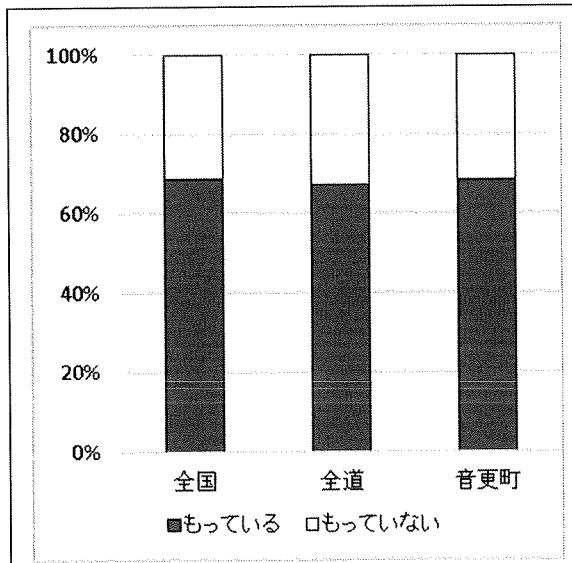
【経年変化】



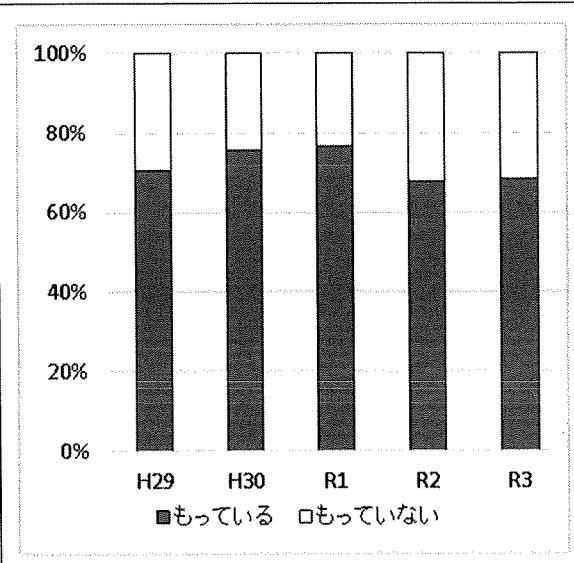
「将来の夢や目標をもっている」と回答した割合は、全国平均を3.9ポイント、全道平均を5.2ポイント上回った。経年比較では、「もっている」の回答率がH30年度を境に少しずつ下降していたが、今年度は昨年を5.9ポイント上回っている。引き続き学級活動や総合的な学習の時間において、キャリア教育を計画的に進めていく必要がある。

<中学校>

【令和3年度】



【経年変化】



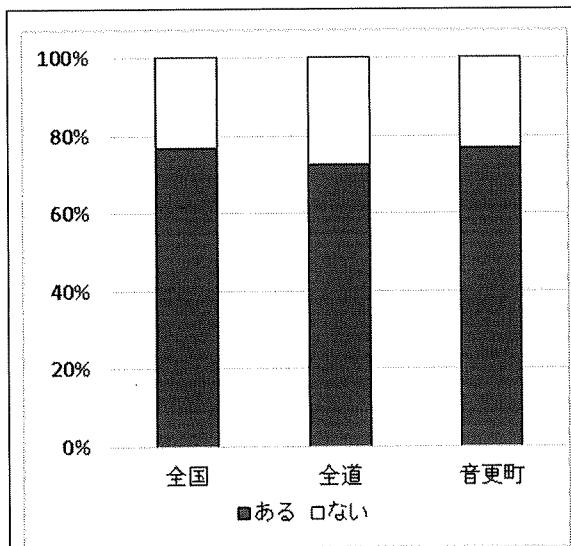
「将来の夢や目標をもっている」と回答した割合は、全国平均とほぼ同程度であった。経年比較では、H29年度からR1年度までは70%を超えていたが、今年度は68.5%であり、昨年とほぼ同程度の結果となった。今後もキャリア教育の充実が求められるが、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、個別の教育相談の充実も必要である。

6 自分には、よいところがあると思いますか。

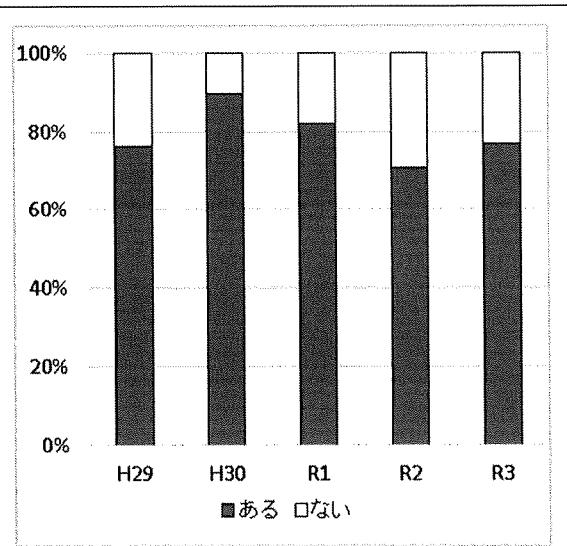
※グラフの「ある」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和3年度】



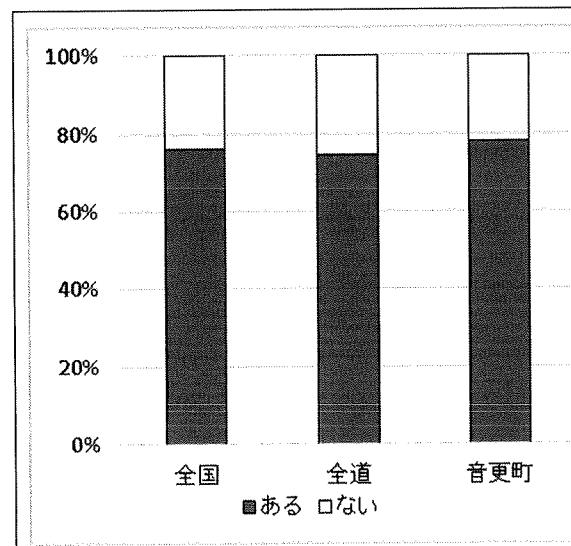
【経年変化】



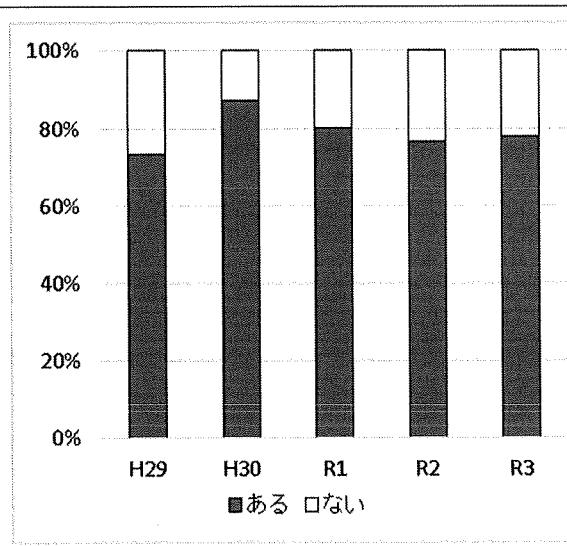
「自分には、よいところがある」と回答した割合は 76.9%で、全国平均と同値、全道平均を 4.3 ポイント上回っている。経年比較では、「ある」の回答率が昨年を 6.1 ポイント上回った。学校でも家庭でも、児童のよいところや努力したことを適切に評価し適切に褒めることが、児童の自己肯定感を高めることにつながる。

<中学校>

【令和3年度】



【経年変化】



「自分には、よいところがある」と回答した割合は 78%で、全国平均を 1.8 ポイント、全道平均を 3.5 ポイント上回った。経年比較では、「ある」の回答率が、昨年を 1.2 ポイント上回った。中学校では特に生徒指導の 3 機能（「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」）を生かした授業が、自己肯定感の向上につながる。

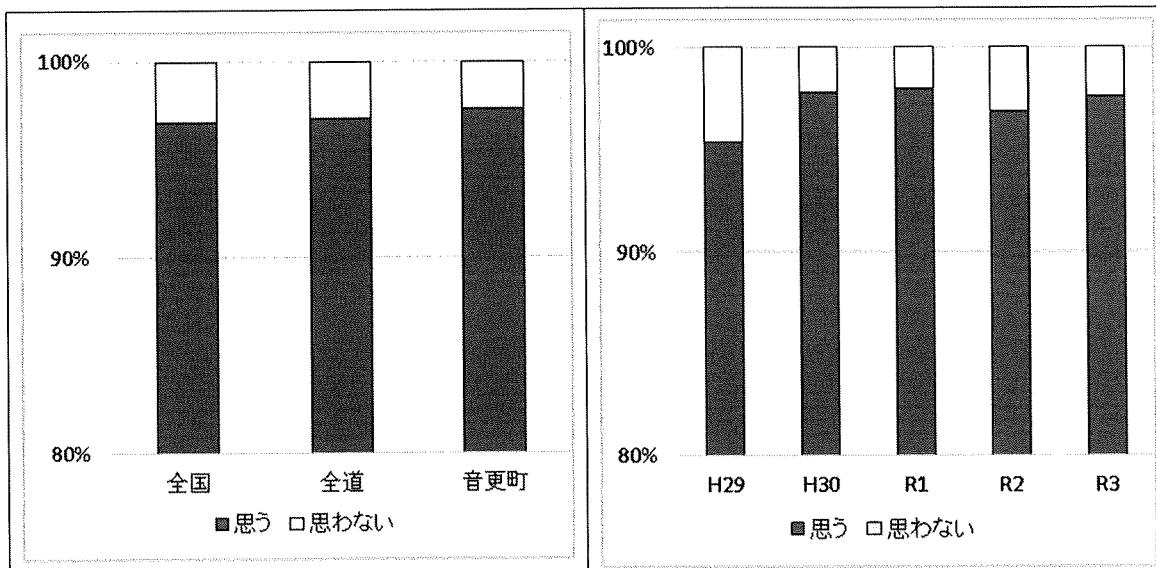
7 いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか。

\*グラフの「思う」は、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の合計

<小学校>

【令和3年度】

【経年変化】

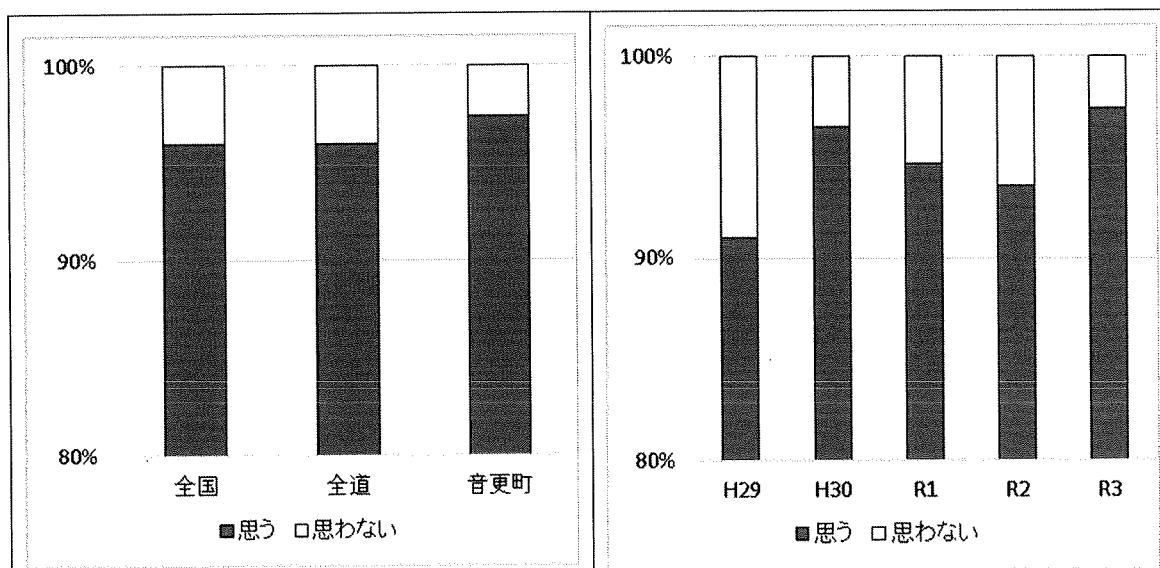


「いじめはどんなことがあってもいけないこと」と回答した割合は、97.6%であり、全国・全道平均をともに若干上回っている。経年比較では、「思う」の回答率が昨年をわずかに上回ったが、100%には達していない。引き続き、道徳教育の充実を図るとともに、教員がアンテナを高くし、日常生活のあらゆる場面を捉え、他者を尊重する態度を養う必要がある。

<中学校>

【令和3年度】

【経年変化】



「いじめはどんなことがあってもいけないこと」と回答した割合は、全国・全道・音更町平均いずれも95%を超えており、音更町平均が若干上回っている。経年比較では、「思う」と回答した割合が昨年を3.8ポイント上回る高い数値を示しており、いじめに対する認識が高い。小学校と同様、引き続き、道徳教育の充実を図るとともに、教育活動全体を通して他者を尊重する態度を養う必要がある。

【クロス集計分析】※各教科の正答率と児童生徒用質問紙の調査結果をかけ合わせて集計・分析したもの

- 「国語、算数・数学の勉強は大切だと思うか」「国語、算数・数学の授業内容はよく分かるか」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の国語、算数・数学の正答率は「当てはまらない」と回答した児童生徒の正答率を上回っている。特に小学校算数では、20 ポイント以上高い結果であった。
- 「家で自分で計画を立てて勉強しているか」「学校の授業以外に1時間以上勉強しているか」という質問に対して「よくしている」と回答した児童生徒の国語、算数・数学の正答率は、「全くしていない」と回答した児童生徒の正答率を約10 ポイント上回っている。
- 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上テレビゲームをしている」と回答した児童生徒の国語、算数・数学の正答率は、「1時間より少ない」と回答した児童生徒の正答率を下回っている。特に中学校数学では20 ポイント以上下回っており、その傾向が顕著であった。

② 学力向上のための取組

◆教育委員会の主な取組

- 1 全国学力・学習状況調査の分析と検証を行い、「音更町の学力の傾向と改善のポイント」としてまとめ、学習指導の改善や学習意欲の向上に資する基礎資料を提示
- 2 特別支援教育の推進のため、特別支援教育学習支援員は、平成30年度から2名増員し、32名を配置、複式教育学習支援員は平成25年度から2名を配置
- 3 35人を超える学級を有する小学校に対し、平成28年度から町費負担教諭を配置。令和3年度は7名を配置
- 4 教育相談や各種指導助言業務、学校と教育委員会の連携のため、教育推進員2名と学校教育相談員1名を配置
- 5 指導方法工夫改善事業、少人数学級実践研究事業（小3・小4・中1）等を活用し、教員の加配等による学習環境の向上を実施
- 6 教職員の資質の向上を図るため、教職員研修（校内研修、道内研修、実践指定校事業）への補助と研修の充実
- 7 「家庭学習のすすめ」、「家庭学習の手引き」を作成し、児童生徒及び家庭に配布
- 8 学級文庫を小学校6校に配置し、夏・冬休みに本の入替を実施、また、移動文庫として小学校5校に出向き、毎月本の入替と低学年を対象とした読み聞かせを実施
- 9 退職校長と連携し、長期休業中（夏季・冬季）に「熟年先生から学ぼう講座」を実施
- 10 令和2年度からの小学校5、6学年の英語教科の開始に向けて、令和元年度から英語指導助手を1名増員
- 11 国のG I G Aスクール構想に基づき、子どもたち一人一人に個別最適化され、創造性を育む教育I C T環境の実現に向けて、令和2年度に町内全ての児童・生徒にタブレット端末を配布し、本年度から本格的な運用を開始している。

◆学校の主な取組

- 1 全国学力・学習状況調査やC R T（標準学力検査）の分析結果に基づく学校改善プランの作成と組織的な取組の推進
- 2 分かる授業（課題提示とまとめの時間の確保）を目指す授業改善
- 3 特別に配慮を要する児童生徒等に対する補充的な学習サポートや習熟度別指導の充実
- 4 加配教員、町費負担教諭及び学習支援員等による学習指導の充実

- 5 教職員の資質の向上を図るため、校内研修の充実と各種研修への積極的な参加
- 6 宿題や家庭学習専用ノートの活用による家庭学習の充実
- 7 「家庭学習のすすめ」や「家庭学習の手引き」を活用した家庭での学習習慣の啓発
- 8 幼保・小・中の円滑な接続による学びの連続性の確保

◆家庭や地域との連携

- 1 保護者及び地域住民に対する学習の機会及び情報の提供
- 2 学校と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん」などによる基本的な生活習慣の定着と学習習慣の確立
- 3 リズムのある規則正しい生活ができるよう P T A等と連携した啓発活動

## (2) 健やかな体の育成

体力とは、人間の発達・成長を支え、体を動かす原動力であると同時に、健康を維持する上でも必要なものです。また、体力は知力や意欲・気力といった精神面の充実にも大きく関わっており、体力は「生きる力」の重要な要素の一つとなります。その取組の一つとして、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を、小学校5年生と中学校2年生を対象に、全数調査を実施しています。また、調査結果を分析・考察した結果を活用して、本町児童生徒の体力・運動能力向上を推進しています。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国体力・運動能力、運動習慣等調査が実施されなかつたため、令和2年度に町内各校が実施した新体力テストの結果を、令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（全国及び音更町）と比較しています。

### ① 児童生徒の現状と課題

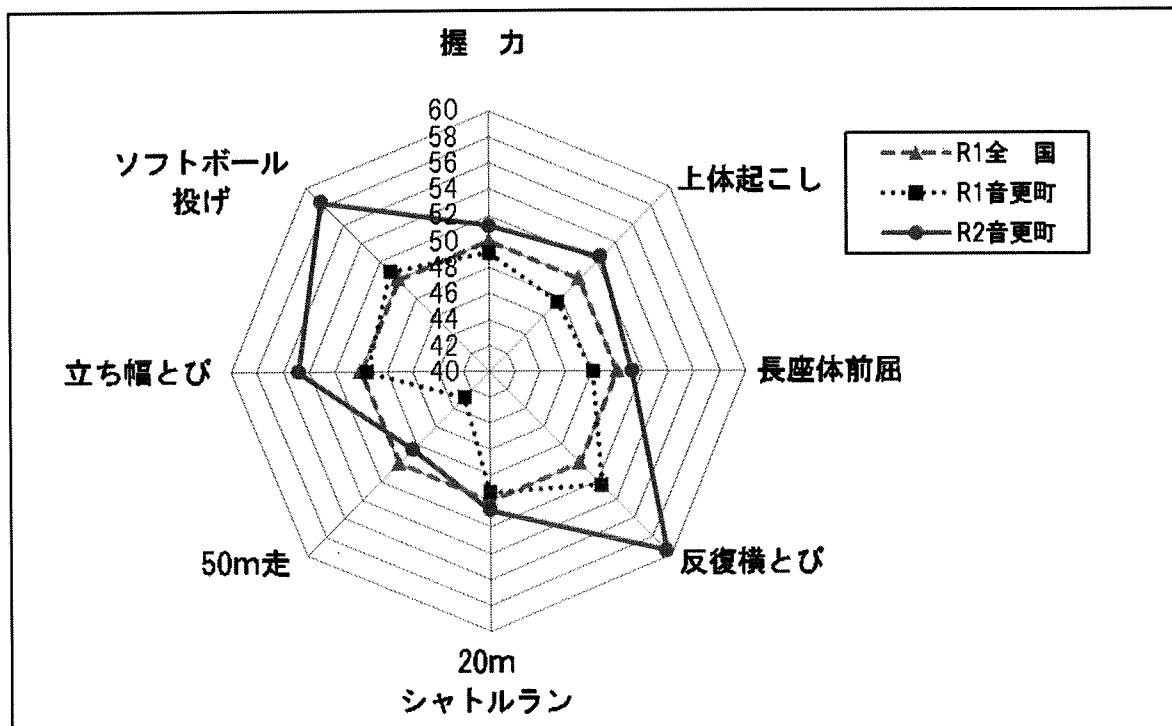
#### 令和2年度調査の分析・考察（令和元年度調査との比較）

##### 【小学校5年男子】

###### <分析と考察>

- 体力合計点は、前年度（R1）に比べ、全国・音更町平均ともに上回る結果となった。
- 各種目では、全8種目中「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の7種目が、前年度の全国平均を上回る結果となった。また、前年度の音更町平均と比較すると、全ての種目で上回る結果となった。
- 課題は「50m走」である。「50m走」は前年度に比べ、全国平均には近づく結果となったものの、上回るまでには至らなかった。
- 小学校男子の課題への対応として、「スピード」を上げるための「瞬発力」の向上を目指した指導の充実が必要である。

###### <各種目ごとの全国・全道平均との比較>

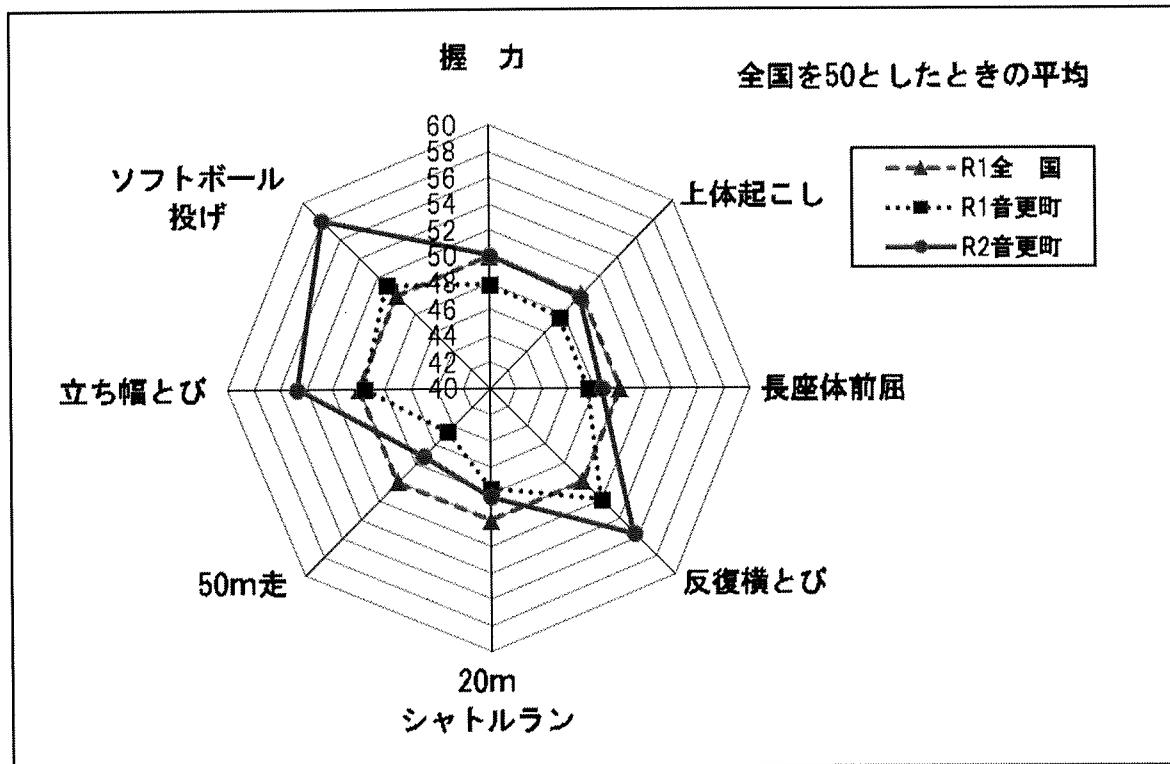


## 【小学校5年女子】

### <分析と考察>

- 体力合計点は、前年度（R1）に比べ、全国・音更町平均ともに上回る結果となった。
- 各種目では、前年度の音更町平均と比較すると、全ての種目で上回る結果となり、前年度同様「ソフトボール投げ」が全国平均を大きく上回る結果となった。また、前年度課題となっていた「上体起こし」は、全国平均とほぼ同程度の結果となった。
- 課題は「50m走」「20mシャトルラン」「長座体前屈」である。前年度の音更町平均を上回ったものの、全国平均は下回る結果となった。
- 小学校女子の課題への対応として、「スピード」「全身持久力」「柔軟性」の向上を目指した指導の充実が必要である。

### <各種目ごとの全国・全道平均との比較>

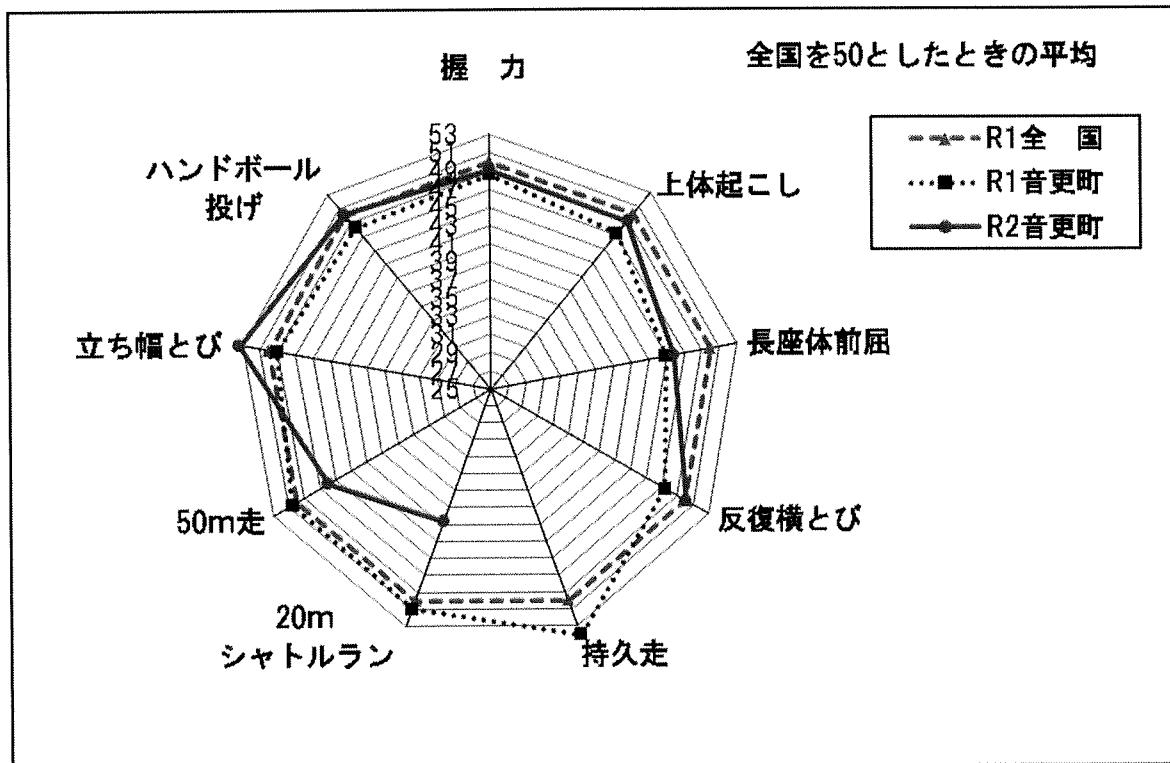


## 【中学校2年男子】

### <分析と考察>

- 各種目では「反復横とび」「立ち幅とび」「ハンドボール投げ」が、前年度の全国・音更町平均を上回る結果となった。また、前年度課題となっていた「上体起こし」は、全国平均までは及ばないものの、前年度の音更町平均を上回る結果となった。
  - 課題は「20mシャトルラン」「長座体前屈」「50m走」である。特に「20mシャトルラン」は、前年度は全国平均を上回っていたが、大幅に下回る結果となった。
  - 中学校男子の課題への対応として、「全身持久力」「柔軟性」「スピード」の向上を目指した指導の充実が必要である。なお、小学校の課題を踏まえ「50m走」については、小中一貫した課題として捉えていく必要がある。
- ※前年度（R1）体力合計点との比較については、令和2年度に持久走を実施していないため、記載していない。

### <各種目ごとの全国・全道平均との比較>

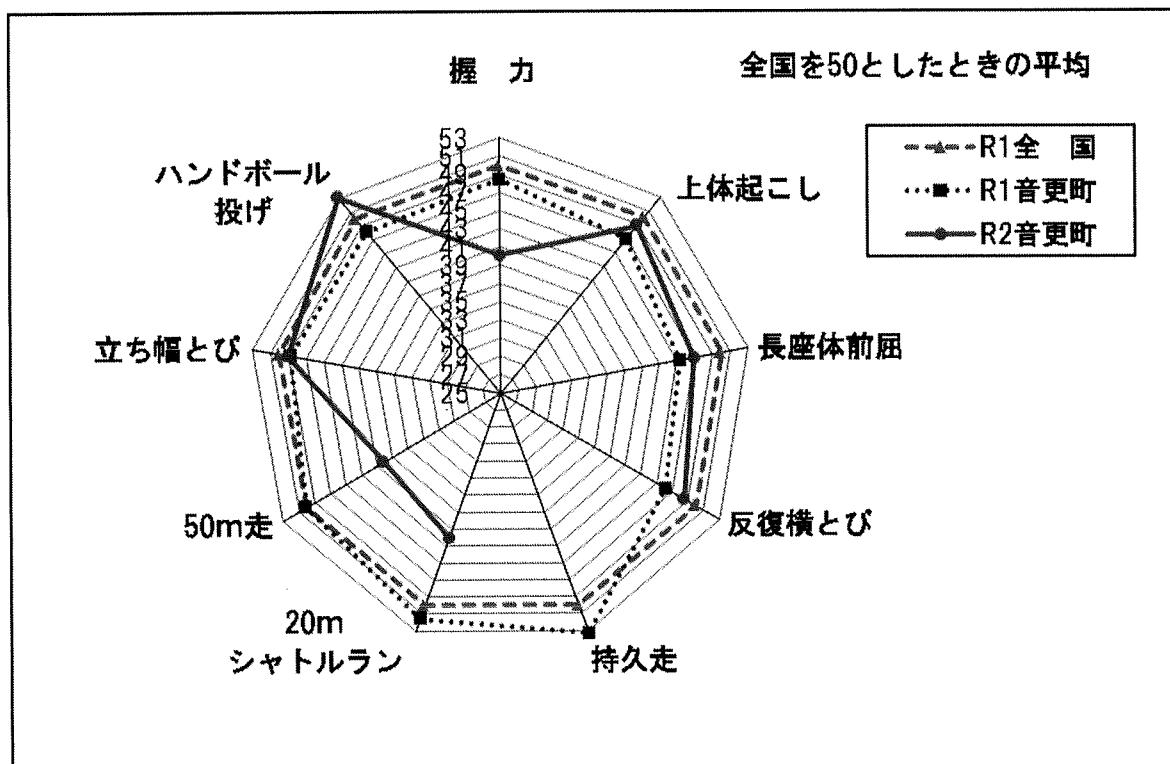


## 【中学校2年女子】

### <分析と考察>

- 各種目では、前年度全国平均を下回っていた「ハンドボール投げ」が、今年度（R2）は前年度の全国・音更町平均を上回る結果となった。また、「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「立ち幅とび」は、前年度の全国平均までは及ばなかったが、前年度の音更町平均を上回る数値となった。
  - 課題は「握力」「50m走」「20mシャトルラン」である。「握力」は、前年度に引き続き、全国平均を下回る結果となった。「50m走」「20mシャトルラン」は、前年度は全国平均を上回っていたが、大きく下回る結果となった。
  - 中学校女子の課題への対応として、「筋力」「スピード」「全身持久力」の向上を目指した指導の充実が必要である。なお、小学校の課題を踏まえ「50m走」「20mシャトルラン」については、小中一貫した課題として捉えていく必要がある。
- ※前年度（R1）体力合計点との比較については、令和2年度に持久走を実施していないため、記載していない。

### <各種目ごとの全国・全道平均との比較>



## ②体力向上のための取組

### ◆教育委員会の主な取組

- 1 体力・運動能力の向上、運動習慣の改善に向けた教材・教具の充実等、学校への支援
- 2 全国・体力運動能力、運動習慣等調査の分析結果を、体力向上の基礎資料として提示
- 3 体育専科教員の加配による体育授業の充実
- 4 体力づくり、健康づくりの振興（スポーツライフ、各種スポーツ教室、各種スポーツ大会の開催）
- 5 スポーツ指導者、リーダーの育成
- 6 スポーツの奨励及び顕彰（スポーツ大会参加補助、スポーツ賞等表彰）
- 7 町内スポーツ施設の整備充実
- 8 地産地消と食育の推進のため、おとづけ給食などを実施

### ◆学校の主な取組

- 1 「年間指導計画」に基づく学校全体の体力づくりの推進
- 2 体育的行事を通した体力づくりの充実
- 3 全国体力・運動能力、運動習慣等調査や新体力テストの結果を活用した組織的な体力向上の取組
- 4 体育（保健体育）の授業改善による基礎体力の向上と課題克服に向けた取組の充実
- 5 「体力づくり一校一実践」や「どさんこ元気アップチャレンジ」の取組
- 6 少年団活動や部活動の加入の奨励と運動習慣の確立
- 7 「年間指導計画」に沿った食に関する指導の充実（栄養教諭の活用）

### ◆家庭との連携による体力づくりの推進

- 1 「早寝・早起き・朝ごはん」の定着と、帰宅後の生活習慣の改善に努め、リズムのある規則正しい生活ができるようPTA等と連携した啓発活動
- 2 運動習慣の大切さに対する意識を高め、自ら運動への関心・意欲を高める工夫
- 3 食育の推進等により、望ましい食習慣を身に付け、健康的な生活習慣を形成

### (3) 豊かな心の育成

子どもたちの健やかな成長と心豊かな未来のためには、自立し、共に支え合いながら、善悪の判断・人を思いやる心・命や自然を大切にする心・ふるさとを愛する心などを育成することが大切です。このため、いじめや不登校などの問題については、教育活動全体を通じての指導や道徳教育の充実、学校、家庭、教育委員会などが連携した取組が必要です。

#### ① いじめ・不登校の現状と課題

##### <いじめ>

平成29年3月に国の「いじめ防止等のための基本方針」等が改定されたことに伴い、平成30年には、町や各学校の「いじめ防止基本方針」を改定し、各学校においていじめ防止のための対策を進めています。

それら対策のうちの一つである、いじめに関するアンケート調査では、いじめの全貌を把握することは難しいという認識の下、児童生徒が「嫌な思い」を感じている場合についても、いじめとして認知する必要があるということから、「いじめ」を「嫌な思い」という表現にしています。

令和3年11月に実施したいじめに関するアンケート調査では、「4月以降に、仲間はずれや無視、たたかれる、悪口を言われる等々の嫌な思いをしたことがある」と答えた小学生が528件、中学生では56件となっており、「嫌な思いは今でも続いている」と答えた小学生の事例が225件、中学生の事例が20件となっています。これらの事案については、各学校において教育相談を実施しており、3月までに解消しています。

また、「いじめはどんな理由があっても許されない」と回答している児童生徒は、84.2%で、前年度より0.9ポイント減少しています。

##### いじめに関するアンケート結果の推移

項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
嫌な思いをした（いじめられた）ことがある (単位：件)	小学生	416	542	543	541	528
	中学生	112	79	70	45	56
	計	528	621	613	586	584
嫌な思い（いじめ）は今でも続いている (単位：件)	小学生	144	195	184	189	225
	中学生	19	22	27	13	20
	計	163	217	211	202	245
いじめはどんな理由があっても許されない (単位：%)	小学生	82.1	83.5	86.8	86.8	85.3
	中学生	77.6	77.1	79.1	82.1	82.3
	計	80.2	81.0	84.1	85.1	84.2

##### <不登校>

令和3年度における不登校の状況は、小学生36人、中学生112人の合計148人であり、小学生、中学生とも増加しています。そのうち、適応指導教室（ふれあい教室）への通級者は、小学生5人、中学生24人の合計29人で、前年度と同様に利用者が通級しています。

不登校の要因や背景は、保護者等の生活環境状況も含め複雑・多岐にわたっており、解消のためには、関係機関等との連携による相談・支援が重要ですが、相談等を受けずに不登校が長期間続いている児童生徒もいることが大きな課題となっています。

不登校の児童生徒数の推移

(単位：人)

項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
不登校児童生徒数	小学生	6	18	28	31	36
	中学生	55	51	63	75	112
	計	61	69	91	106	148
上記のうち、適応指導教室（ふれあい教室）	小学生	0	1	2	0	5
	中学生	10	9	10	11	24
	計	10	10	12	11	29

## ② いじめ・不登校未然防止の取組

いじめは「どの子どもにも、どの学校でも起こりうる」という意識を持ち、教育活動全体を通じ、全ての児童生徒に「いじめは決して許されない」という理解を促し、心の通う人間関係を構築する能力を養うことが必要です。また、早期発見のためには、学校、家庭が一体となって児童生徒を見守り、ささいな変化に気づくことが必要です。

不登校については、原因を解決することが難しい場合が多いことから、特定の状況下で起こるのではなく、「どの子どもにも起こりうる」と捉え、未然防止に向けて児童生徒の自己有用感を高め、児童生徒一人一人の居場所のある学校づくりの取組が大切です。

### ◆教育委員会の取組

- 1 「音更町いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ・不登校の防止等の取組
- 2 いじめ・不登校の未然防止や根絶を図るため、アンケート調査や心理検査等を実施
- 3 学校に対する支援や相談体制の充実（青少年の悩み相談電話、学校教育相談員、教育推進員、心の教室相談員等）
- 4 携帯電話やスマートフォンなどのインターネットを通じて行われるいじめの早期発見を図るため、P T A 等関係機関と連携し、家庭におけるルールづくりの啓発
- 5 適応指導教室（ふれあい教室）による不登校対策（令和3年10月 ふれあい柳町教室「ほっと」開設）
- 6 「音更町いじめ問題等対策委員会」による状況の把握及びいじめ防止啓発等の推進
- 7 家庭・地域・関係機関（警察、児童相談所、医療機関等）との連携体制の充実
- 8 保護者、児童生徒及び関係機関を対象とした不登校学習会の開催

### ◆学校の主な取組

- 1 「いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期解消の取組
- 2 いじめ・不登校の未然防止や早期発見のため、定期的に実施するアンケートや心理検査の分析を活用した教育相談や学級経営
- 3 教育相談体制の充実と教育相談の実施
- 4 道徳の時間などにおいて、共感的な関係を深め、体験的な活動の充実
- 5 ネットトラブルから児童生徒を守るため、定期的なネットパトロールの実施と情報モラル教育の充実
- 6 家庭・地域・関係機関（警察、児童相談所、医療機関等）との連携

◆家庭や地域との連携

- 1 自尊感情や他人を思いやる心の醸成
- 2 家庭だけで悩まず、学校や教育委員会などとの連携
- 3 社会教育の充実（地域で子どもを育てる気運）
- 4 携帯電話やスマートフォンなどの家庭におけるルールづくり

### 3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

項目	主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価												
(1) 文 教 対 策															
1 教 職 員 研 修	教職員の資質の向上を図るため、次のとおり研修を行った。 対象教職員 372人 1,640,591円		教職員の素養、知識、技術向上のために学校内で行う研修と、道内研修参加者にその費用を交付した。また、学校内で創意工夫した研修を奨励する「校内研修実践指定校事業」を6校で実施した。令和3年度も令和2年度同様に、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの研修が中止又はリモート開催となつたが、今後も教職員の資質向上のため、継続していく必要がある。												
2 音 更 高 校 支 援 関 係	音更高校の安定的な入学者数確保を支援するため、町と連携して実施する高校の魅力化推進の一環として、ICTを活用した教育活動の充実を図ることを目的に、生徒に無償貸与するタブレット端末を整備した。 対象生徒数 120人 4,936,800円		中学校卒業者数が年々減少する中で、音更高校の魅力向上を支援し、入学希望者層につながる取組みとして実施しており、ICT環境の整備により、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用できる能力や資質の向上も見込まれることから、継続して取り組む必要がある。												
3 教 職 員 健 康 対 策	教職員の健康診断及びストレスチェックを次のとおり実施した。 健康診断受診人数368人 胸部X線、胃検査、血压検査、尿検査、血液検査 心電図検査、聽力検査、身体総合検査		教職員の健康診断を帯広徳洲会病院に委託して実施した。1日に当りの受入れ人數に制限があるため（1日5人程度）、長期に渡って実施している。また、平成29年度から、メンタルヘルス不調の未然防止やストレスへの気つきを促すため、教職員のストレスチェックを実施している。長期休業期間中に多くのお教職員が受診できるよう日程を調整し、継続して実施する必要がある。												
4 教 材 教 具 の 整 備	小中学校の教材教具を次のとおり整備した。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;">(単位 円)<tr> <th>区分</th> <th>学校数</th> <th>整備額</th> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>11</td> <td>4,022,330</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>5</td> <td>3,111,730</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16</td> <td>7,134,060</td> </tr> </table>	区分	学校数	整備額	小学校	11	4,022,330	中学校	5	3,111,730	計	16	7,134,060		新設の普通学級や特別支援学級に必要な教材や、学校要望を整理した上で教材教具を整備し、教育環境の充実を図っている。また、吹奏楽の楽器は年次計画で各中学校に整備している。今後も、計画的に教材教具を整備していく必要がある。
区分	学校数	整備額													
小学校	11	4,022,330													
中学校	5	3,111,730													
計	16	7,134,060													
5 学 校 整 備 基 金 積 立 金	学校施設の整備及び教育環境を整備するための備品等の購入財源に充てるため、学校整備基金を設置した（積立額 72,624,000円）。		施設整備や備品の購入など教育環境の充実を図るために、計画的な財源の確保は必須となつておらず、今後も継続して取り組む必要がある。												
6 総 合 的 な 学 習 の 時 間 支 援 事 業	総合的な学習の時間として、創意工夫を生かした特色ある学校づくりの推進を図った。		総合的な学習の時間における教育活動において、創意工夫による特色ある学校づくりのため、小中学校にその経費を交付している。今後も、国際理解・情報・環境・福祉・健康教育等の総合的な教育活動の推進のために必要である。												

項目	主 要 な 施 策	成 果	教育委員会の点検・評価																																																			
7 就 学 援 助	経済的理由により就学困難な児童生徒に対し、次のとおり就学援助費を支給した。 (単位：人、円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>支給人数</th> <th>支給額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学用品費</td> <td>1,036</td> <td>19,596,717</td> </tr> <tr> <td>体育実技用具費</td> <td>319</td> <td>3,767,390</td> </tr> <tr> <td>入学準備金</td> <td>51</td> <td>2,747,100</td> </tr> <tr> <td>入学準備金(早期支給)</td> <td>159</td> <td>9,039,360</td> </tr> <tr> <td>卒業アルバム代</td> <td>212</td> <td>2,403,590</td> </tr> <tr> <td>修学旅行費</td> <td>214</td> <td>8,646,090</td> </tr> <tr> <td>通学費</td> <td>4</td> <td>219,461</td> </tr> <tr> <td>P T A会費</td> <td>750</td> <td>2,314,248</td> </tr> <tr> <td>生徒会費</td> <td>377</td> <td>136,218</td> </tr> <tr> <td>クラブ活動費</td> <td>272</td> <td>4,104,550</td> </tr> <tr> <td>医療費</td> <td>497</td> <td>1,303,371</td> </tr> <tr> <td>給食費</td> <td>1,036</td> <td>49,340,802</td> </tr> <tr> <td>通信費</td> <td>41</td> <td>830,179</td> </tr> <tr> <td>管理指導表文書料</td> <td>6</td> <td>7,900</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>104,456,976</td> </tr> <tr> <td>(うち)新型コロナウイルス感染症による特別枠</td> <td>17</td> <td>1,969,183</td> </tr> </tbody> </table>	区分	支給人数	支給額	学用品費	1,036	19,596,717	体育実技用具費	319	3,767,390	入学準備金	51	2,747,100	入学準備金(早期支給)	159	9,039,360	卒業アルバム代	212	2,403,590	修学旅行費	214	8,646,090	通学費	4	219,461	P T A会費	750	2,314,248	生徒会費	377	136,218	クラブ活動費	272	4,104,550	医療費	497	1,303,371	給食費	1,036	49,340,802	通信費	41	830,179	管理指導表文書料	6	7,900	計		104,456,976	(うち)新型コロナウイルス感染症による特別枠	17	1,969,183	<p>経済的理由により就学困難な児童生徒に対し、就学援助をすることにより、経費負担の軽減を図っている。</p> <p>就学援助の対象者として、要保護者に準ずる程度に困難していることと認められる要保護者の認定率を、平成28年度から生活保護基準の1.5倍未満に引き上げ、認定者数を拡大して援助を行つていい。認定者数は、児童生徒数が減少している中で、令和2年度より17人増加しており、認定率が1.2ポイント上昇した。</p> <p>また、令和3年度の全体の支給額は、昨年度に比べ約478万円の増となつていて、昨年度の支給額が新型コロナウイルスによる修学旅行先の変更や部活動の自粛等により、例年に比べ大幅に減少したためである。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入が著しく減少した方を支給対象とした特別枠を令和2年度から新たに設けているが、令和3年度の支給額は、昨年度に比べ約149万円の増えているが、令和3年度から貸出しを実施している「家庭学習のためのモバイルWi-Fiルーター」に係る通信費について、実費分を支給した。</p> <p>今後も保護者負担の軽減のため、継続していくことが必要である。</p>
区分	支給人数	支給額																																																				
学用品費	1,036	19,596,717																																																				
体育実技用具費	319	3,767,390																																																				
入学準備金	51	2,747,100																																																				
入学準備金(早期支給)	159	9,039,360																																																				
卒業アルバム代	212	2,403,590																																																				
修学旅行費	214	8,646,090																																																				
通学費	4	219,461																																																				
P T A会費	750	2,314,248																																																				
生徒会費	377	136,218																																																				
クラブ活動費	272	4,104,550																																																				
医療費	497	1,303,371																																																				
給食費	1,036	49,340,802																																																				
通信費	41	830,179																																																				
管理指導表文書料	6	7,900																																																				
計		104,456,976																																																				
(うち)新型コロナウイルス感染症による特別枠	17	1,969,183																																																				
8 奨 学 資 金	高校在学者で家庭の経済的な理由により就学困難な者に対し、奨学資金を支給した。 《通常枠》	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>支給人数</th> <th>奨学資金 月額</th> <th>支給総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通年(公立高校)</td> <td>70</td> <td>6,500</td> <td>5,557,500</td> </tr> <tr> <td>通年(私立高校)</td> <td>41</td> <td>10,000</td> <td>4,770,000</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>111</td> <td></td> <td>10,327,500</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>支給人数</th> <th>奨学資金 月額</th> <th>支給総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通年(公立高校)</td> <td>16</td> <td>6,500</td> <td>1,248,000</td> </tr> <tr> <td>通年(私立高校)</td> <td>3</td> <td>10,000</td> <td>360,000</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>19</td> <td></td> <td>1,608,000</td> </tr> </tbody> </table>	区分	支給人数	奨学資金 月額	支給総額	通年(公立高校)	70	6,500	5,557,500	通年(私立高校)	41	10,000	4,770,000	計	111		10,327,500	区分	支給人数	奨学資金 月額	支給総額	通年(公立高校)	16	6,500	1,248,000	通年(私立高校)	3	10,000	360,000	計	19		1,608,000	<p>高校在学者であって、経済的な理由により就学困難な高校生に奨学資金を支給している。</p> <p>公立高校が月当たり6,500円、私立高校が月当たり1万円を限度に実施している。</p> <p>令和3年度も、令和2年度同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入が著しく減少した方を支給対象者として特別枠を設け、奨学資金を支給した。</p> <p>今後も保護者負担の軽減のため、継続していくことが必要である。</p>																			
区分	支給人数	奨学資金 月額	支給総額																																																			
通年(公立高校)	70	6,500	5,557,500																																																			
通年(私立高校)	41	10,000	4,770,000																																																			
計	111		10,327,500																																																			
区分	支給人数	奨学資金 月額	支給総額																																																			
通年(公立高校)	16	6,500	1,248,000																																																			
通年(私立高校)	3	10,000	360,000																																																			
計	19		1,608,000																																																			

項目	成 績	教育委員会の点検・評価
主 要 な 施 策	9 教育施設の整備	教育施設の整備を次のとおり実施した。
		<p>(既存施設の改修及び保全)</p> <p>施設の整備については、令和2年度に引き続き、災害用の機能を備えた屋外トイレを整備したほか、児童生徒の熱中症対策のため、保健室にエアコンを設置した。</p> <p>また、老朽化が進む学校施設の整備として、鈴蘭小学校屋内運動場の屋根外壁の塗装改修を実施し、下音更小学校、西中音更小学校及び共栄中学校においては高圧受電設備の更新した。</p> <p>今後は、長寿命化計画に沿った維持管理を行い、施設に求められる安全安心はもとより、機能や性能の確保に努めていく。</p> <p>(老朽化した学校の大規模改修)</p> <p>老朽化が深刻な柳町小学校の長寿命化を図るため、令和元年度から大規模改修を実施しており、令和3年度においては、2階・3階の普通教室及び特別支援教室の内部改修を行つた。今後も計画的な改修や設備等の更新を行い、建物の保全及び延命を図る。</p>

(単位 円)		
工 事 名 等	工事費等	内 容
共栄中学校揚水ポンプ更新工事	2,805,000	揚水ポンプ更新
下音更中学校給食機入口風除室設置工事	924,000	給食機入口風除室設置
西中音更小学校図書室ほかタイルカーペット改修工事	1,287,000	図書室ほかタイルカーペット改修
鈴蘭小学校舎北側屋外放送用スピーカー設置工事	180,400	屋外放送用スピーカー設置
緑南中学校校舎南側屋外放送用スピーカー設置工事	297,000	屋外放送用スピーカー設置
下音更中学校校舎南側駐車場外灯設置工事	253,000	外灯設置
木野東小学校屋内運動場ステージ天井照明更新工事	858,000	屋内運動場ステージ天井照明更新
東土幌小学校給食室トイレ新設工事	1,672,000	給食室トイレ新設
東土狩小学校普通教室床改修工事	1,232,000	普通教室床改修
適応指導教室(柳町教室)整備工事	7,700,000	旧教職員住宅内部改修
緑陽台小学校遊具再整備工事	968,000	鋼製コンビネーション遊具再整備
鈴蘭小学校屋内運動場外壁塗装(ほか改修工事)	29,535,000	外壁塗装、屋根塗装、屋上防水
西中音更小学校水泳プール水槽塗装工事	6,765,000	水泳プール水槽塗装
西中音更小学校水泳プール上屋シート更新工事	627,000	水泳プール上屋シート更新
鈴蘭小学校ほか3校水泳プール給湯ボイラー更新工事	2,475,000	水泳プール給湯ボイラー更新 鈴蘭小ほか3校
小中学校エアコン整備	2,750,000	保健室ほかエアコン整備 下土幌小ほか6校
下音更小学校屋外トイレ改築建築工事	16,379,000	屋外トイレ改築
下音更小学校屋外トイレ改築機械設備工事	8,448,000	屋外トイレ改築に伴う機械設備工事
鈴蘭小学校屋外トイレ改築建築主体工事	16,665,000	屋外トイレ改築

項 目	主 要 な 施 策	成 果		教育委員会の点検・評価
9 教育施設の整備	鈴蘭小学校屋外トイレ改築機械設備工事 下音更小学校校舎トッ普ライト改修工事	13,530,000	屋外トイレ改築に伴う機械設備工事 昇降口上部、ホール吹抜上部トップライト改修	
	柳町小学校校舎改修建築主体工事	1,514,700	校舎普通教室ほか内部改修	
	柳町小学校校舎改修電気設備工事	73,700,000	校舎改修に伴う電気設備工事	
	柳町小学校校舎改修機械設備工事	13,035,000	校舎改修に伴う機械設備工事	
	適応指導教室屋内運動場暖房設備改修工事	7,172,000	校舎改修に伴う機械設備工事	
	下音更小学校受変電設備改修工事	6,809,000	暖房設備改修	
	西中音更小学校受変電設備改修工事	3,619,000	高圧受電設備改修	
	音更小学校給湯用膨張タンク更新工事	11,550,000	高圧受電設備改修	
	音更小学校屋外トイレ新築建築主体工事	1,056,000	給湯用膨張タンク更新	
	下音更中学校屋外トイレ新築建築主体工事	17,776,000	屋外トイレ新築	
	下音更中学校屋外トイレ新築機械設備工事	7,799,000	屋外トイレ新築に伴う機械設備工事	
	緑南中学校暖房設備改修工事	17,347,000	暖房設備改修	
	共栄中学校受変電設備改修工事	11,478,500	高圧受電設備改修	
	駒場中学校暖房配管更新工事	605,000	暖房配管更新	
	音更小学校屋内運動場外壁及び屋根塗装改修設計業務	1,155,000	外壁及び屋根塗装改修設計	
	鈴蘭小学校ほか1校校舎屋上等改修設計業務	1,144,000	屋上防水及びトップライト改修設計 鈴蘭小・東土狩小	
	柳町小学校大規模改修工事監理業務	3,223,000	校舎改修に伴う工事監理	
	東土幌小学校浄化槽更新設計業務	748,000	浄化槽改修設計	
	下音更中学校校舎外壁塗装改修設計業務	759,000	外壁塗装改修設計	
	計	295,840,600		

項目	主な施策	成績	教育委員会の点検・評価
10 教員住宅の整備	教員住宅の整備を次のとおり実施した。		
		(単位 円)	
	工事名等	工事費等	内容
教員住宅換気設備ほか更新	1,144,258	換気設備ほか 更新 1式	
計	1,144,258		
11 開かれた学校づくり	信頼された学校づくりに向けて次のとおり実施した。 ・学校評議員 校長の求めに応じて、学校の教育目標や計画、地域との連携の進め方など学校運営方に關して意見を求めるため、学校評議員を委嘱した。（小学校6校27人、中学校4校18人） ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール） 学校と保護者や地域住民が子どもにも関する課題・目的を共有し、学校における教育活動を支援するコミュニティ・スクールへの移行を促進するため、学校運営及び運営への必要な支援について協議する機関である学校運営協議会を設置し、学校運営協議会委員会を任命した。（小学校5校44人、中学校1校9人） ・小規模特認校 保護者・児童が希望する場合、一定の条件下で、自然環境に恵まれた小規模校へ通学区外からの入学を認める小規模特認校制度を下士幌小学校で導入した。	教職員の福利厚生の一環として整備している住宅の住環境改善のため、計画的に設備機器の更新を行うことができた。今後も入居者の要望を把握し、入居状況を踏まえながら質的整備を進める。	
12 いじめ等の対策	いじめ問題等対策委員会を設置して、全小中学校でアンケート調査を実施し、調査結果をまとめた「いじめに関する実態調査」を教職員に配付した。また、平成25年度から学校生活における児童生徒の満足感や意欲、学級集団の状態を測定することを可能とするハイパーQ-Uアンケートを実施し、児童生徒や学級の状態の客観的・多面的な理解に活用することで、いじめ等の早期発見にも効果を上げている。	信頼される開かれた学校づくりを進めため、学校評議員を活用した「学校評価」及び情報の発信に努め、学校・地域・家庭のより一層の連携協力を図っている。なお、駒場中学校においては、平成30年度から町内のモデル校としてコミュニティ・スクールに平行し、学校運営協議会を設置。駒場中学校を参考に令和2年度は駒場小学校、令和3年度は下士幌小学校、西中音更小学校、東士幌小学校、東士幌小学校がコミュニティ・スクールに移行し、学校運営協議会を設置している。また、平成19年度から小規模特認校制度を導入していった昭和小学校が令和元年度で開校したため、令和2年度からは、下士幌小学校が小規模特認校制度を導入している。令和2年度に1人が入学しており、令和3年度も在籍中。	
13 児童生徒の安全確保	児童生徒の安全確保対策として次のとおり実施した。 ・新入学児童への防犯ブザーの配付 ・全小中学校にAED（自動体外式除細動器）を配置	登下校時の通学路の安全対策については、各学校ごとに地域ぐるみで子どもを見守る取組が進められている。AED操作方法やエビデンスの教職員対象の一般救命講習では、「いじめ防止基本方針」を改定するなど陸校内体制の充実を図り、適応指導教室や心の教室相談員等と連携しながら、いじめ・不登校に対して、早期発見・早期解消に取り組んでいる。	

項目	成 素	果	教育委員会の点検・評価
主 要 な 施 策	目	成	
14 情 報 教 育	ICT機器を効果的に活用し、児童生徒の学習の基盤となる「情報活用能力」の向上を図った。 文部科学省が実施する「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」への参加を希望し、小学校7校、中学校2校が参加校となった。また、全小学校に指導者用デジタル教科書を導入した。 1人1台タブレット端末の運用が開始されたことから、音更町教育研究所と連携し、教職員向けの「1人1台タブレット実技研修会」を実施した。 通信環境が整っていない家庭向けにモバイルWi-Fiルーターの貸し出しを実施した。	新たな学習指導要領において「学習の基盤となる資質・能力」に位置付けられている「情報活用能力」の育成のため、各学校において1人1台のタブレット端末を活用している。 また、災害や感染症などの緊急時ににおける家庭でのオンライン学習や健康観察などを実践的な使用方法や学習指導要領について検討している。	
15 国 際 理 解 教 育	英語指導助手を配置し、中学生に対する英語の発音指導のほか、小学校における英会話の補助及び地域における国際交流活動等の活動を行っている。 英語指導助手 2人	英語指導助手については、任用期間を1年間とし、更新を認めている。小中学校をはじめ、社会人の英会話教室や国際教科がいなど幅広く活用されている。令和2年度から小学校英語教科が開始されおり、取組の強化を図るため、英語指導助手を令和元年8月から1人増員している。また、外部サポータート講師の派遣については、各小学校の指導目標に応じた外國語活動を補助するため、今後も継続していきたい。	
16 食 育	生涯を通じて心身の健康を支える食育を推進するため、食事の重要性や食への感謝の気持ちなどを育みながら、食に関する正しい知識と望ましい食習慣の定着を目指し、学校配置の4名の栄養教諭とともに、自校給食の特色を生かした食育指導の強化を図っている。 また、地場産品への知識や理解を深めてもらうことを目的に、町内産の旬の食材を献立に組み入れる「おとぶけ給食」を町と連携して実施し、安全・安心でおいしい学校給食を提供しながら、地産地消の推進と食育の充実を行っている。	本町の学校給食は、地場産品の割合が高いが、今後も食育の充実を図るとともに、食品の安全・安心に継続して取り組む必要がある。また、地産地消と食育推進のため、町と連携して「おとぶけ給食」を実施している。栄養教諭4人の体制で、食育の充実を図っている。 食品ロス削減と食育の取組の一環として、平成30年度から「音更町学校給食フードリサイクルプロジェクト」事業を実施していくが、バイオガスプランの利用が令和2年度をもって終了したこから、令和3年度はリサイクル事業が実施できない。今後、給食廃さ受入率の選定を進めながら、新たなリサイクルの方法についても検討していく。	
17 特 別 支 援 教 育	肢体不自由学級及び病弱学級等に在籍する児童生徒のうち、生活介助が必要であるものに対し、平成23年度から訪問介護事業所に業務委託し生活介助員を派遣した。 また、特に医療的ケアが必要であるものに対しては、令和元年度から訪問看護事業所に業務委託し看護師を派遣した。 通常学級には引き続き学習支援員を配置した。 複式学校に複式学習支援員を配置した。	特別支援学級での肢体不自由等の障がいがある児童生徒の学校生活を介助するため、今後も生活介助員の配置が必要である。平成20年度から導入した特別支援教育学習支援員は、通常学級における発達障害等により特別な支援を要する児童生徒に対し、学習活動や学校生活において支援を行っており、今後も配置が必要である。 平成25年度から配置している複式学習支援員は、複式学級の児童の指導補助を行うことにより、複式学年別指導の充実を行っていることから、今後も配置が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活介助員 9校</li> <li>看護師 2校</li> <li>特別支援教育学習支援員 11校 32人</li> <li>複式教育学習支援員 4校 2人</li> </ul>



項目	成	果																																
主な施策	教育委員会の点検・評価																																	
2 青少年対策	<p>放課後子ども教室の開設や青少年の健全育成を図るため、巡視指導活動や不審者情報の提供、通報・悩み相談等を行い、関係機関と連携して非行防止に努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対策</th><th>内容</th><th>実施回数</th><th>等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放課後子ども教室の実施</td><td>登録人数 音更小 65人 下音更小 52人 駒場小 19人 柳町小 70人 緑陽台小 26人 鈴蘭小 59人 木野東小 45人</td><td>開催回数 7回 5回 6回 4回 8回 6回 8回</td><td>参加人数 331人 216人 83人 197人 172人 285人 273人</td></tr> <tr> <td>巡視指導活動</td><td>延</td><td>555回</td><td></td></tr> <tr> <td>有害環境の浄化活動</td><td>延</td><td>1,232人</td><td>実施</td></tr> <tr> <td>通報活動・青少年悩み相談</td><td>通報 相談</td><td>37件 2件</td><td></td></tr> <tr> <td>広報活動</td><td>広報紙発行 (内号外1回)</td><td>13回</td><td></td></tr> <tr> <td>研修活動</td><td>会議・研修会</td><td>7回</td><td></td></tr> <tr> <td>関係機関・団体との連携</td><td>派遣 学校訪問</td><td>なし 年2回</td><td></td></tr> </tbody> </table>		対策	内容	実施回数	等	放課後子ども教室の実施	登録人数 音更小 65人 下音更小 52人 駒場小 19人 柳町小 70人 緑陽台小 26人 鈴蘭小 59人 木野東小 45人	開催回数 7回 5回 6回 4回 8回 6回 8回	参加人数 331人 216人 83人 197人 172人 285人 273人	巡視指導活動	延	555回		有害環境の浄化活動	延	1,232人	実施	通報活動・青少年悩み相談	通報 相談	37件 2件		広報活動	広報紙発行 (内号外1回)	13回		研修活動	会議・研修会	7回		関係機関・団体との連携	派遣 学校訪問	なし 年2回	
対策	内容	実施回数	等																															
放課後子ども教室の実施	登録人数 音更小 65人 下音更小 52人 駒場小 19人 柳町小 70人 緑陽台小 26人 鈴蘭小 59人 木野東小 45人	開催回数 7回 5回 6回 4回 8回 6回 8回	参加人数 331人 216人 83人 197人 172人 285人 273人																															
巡視指導活動	延	555回																																
有害環境の浄化活動	延	1,232人	実施																															
通報活動・青少年悩み相談	通報 相談	37件 2件																																
広報活動	広報紙発行 (内号外1回)	13回																																
研修活動	会議・研修会	7回																																
関係機関・団体との連携	派遣 学校訪問	なし 年2回																																

項目	主な施策	成績	結果																		
3 成人教育事業	学習の場と機会を提供し、計画的・継続的学習を進めるとともに、団体の自主的活動の助長に努めた。	<p>(単位 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>家庭教育学級（6学級）</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td>幼児家庭教育学級</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>女性ライフスクール</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>高齢者学級（4学級）</td> <td>298</td> </tr> <tr> <td>高齢者大学（すずらんカレッジ：4学年）</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>高齢者大学院（すずらん大学院：2学年）</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>家庭教育電話相談</td> <td>0 件</td> </tr> <tr> <td>おとづけ「教育を考える日」記念フェスタ</td> <td>485</td> </tr> </tbody> </table> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部事業の実施を中止した。</p>	事業名	参加人数	家庭教育学級（6学級）	147	幼児家庭教育学級	22	女性ライフスクール	27	高齢者学級（4学級）	298	高齢者大学（すずらんカレッジ：4学年）	26	高齢者大学院（すずらん大学院：2学年）	20	家庭教育電話相談	0 件	おとづけ「教育を考える日」記念フェスタ	485	<p>各家庭教育学級は、児童・小学生の保護者の子育て支援と資質向上を図るために、今後も継続が必要である。幼児家庭教育学級は、子育てにおける知識・能力を身に付ける学習の場を提供するが、子育てで講師生が安心して学習活動に取り組めるようボランティアによる託児や日曜日の開催など、より参加しやすい環境整備を行ないながら、通常では継続実施していく。</p> <p>女性ライフスクールは、自ら学ぶことの視点から学習の大切さを通して生活課題の解決や社会人としての資質向上を図り、今後も継続していく。</p> <p>高齢者関係事業は、人生100年時代を迎える中、いつまでも学び合える環境づくりを進め、高齢者の生きがいの創出、健康寿命の延伸が必要な事業である。今年度においても、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部予定を変更して実施したところである。</p> <p>家庭教育相談事業は、指導員が直接対応する電話相談の実績はなかなかたが、家庭教育に關する情報提供や、家庭教育の疑問や悩みに応え、問題解決に向けた事業であるため、今後も継続が必要である。</p> <p>おとづけ「教育を考える日」記念フェスタは、「教育を考える日」の理念や趣旨、具体的な取組等を紹介することで、町民の教育への関心を高め、次代を担う子どもたちへの教育に関する取り組みを地域ぐるみで推進し、交付金を交付して実施している。</p> <p>実行委員会に交付金を交付して実施して実施している。</p> <p>今年度は、教育活動報告のほか、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講演会に代えてリモート授業事例発表など内容を工夫し、教育に關する取組を紹介することで、関心を高めたと考えている。</p>
事業名	参加人数																				
家庭教育学級（6学級）	147																				
幼児家庭教育学級	22																				
女性ライフスクール	27																				
高齢者学級（4学級）	298																				
高齢者大学（すずらんカレッジ：4学年）	26																				
高齢者大学院（すずらん大学院：2学年）	20																				
家庭教育電話相談	0 件																				
おとづけ「教育を考える日」記念フェスタ	485																				

項目	成 索												
主 要 な 施 策	生涯学習への認識を深めるとともに、町内高等教育機関等との連携による学習機会の提供を図った。												
4 生涯学習事業	<p>生涯学習フエスティバルは、生涯学習を実践する各種団体による実行委員会形式のイベントであり、貴重な学習成果の発表の場でもあります。開催時期や内容を見直しながら、高校開放講座は、OOJJCオーブンカレッジ、大谷短期大学・帯広高等教養資源を積極的に活用して有効な事業であり、今後も町民のニーズに対応した、継続性のある魅力的な講座（学習機会）を提供する必要があります。</p> <p>生涯学習まちづくりセミナーは、生涯学習によるまちづくりを進めることで協働によるまちづくりが何よりも継続していくことが必要である。芸術講座を通じた町民有効な事業であり、継続実施している書道講座をはじめ、音楽講座、趣味講座のほかコロナ禍における健康・運動講座など町民ニーズや時宜に対応した講座を実施し、生きがいづくりや資質の向上、文化的活動を支援するもので、今後も継続して実施する必要がある。</p> <p>今年度においては、準備を進めながらも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止・延期を余儀なくされた事業があつたが、感染症に対する意識が高まり、オンラインの活用など開催方法や内容を工夫し、コロナ禍など社会の変化に対応しながら、学習機会の提供を行なうことができた。また、開町120周年を記念して、その功績を讃える生涯学習特別講座「おとふけ120年の歩みと伊福部昭氏の世界」を開催した。</p> <p>社会の変化に対応し心豊かに生きるために、自己学習や世代間・地域間交流の促進を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事 業 名</th> <th>参 加 人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習フエスティバル</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>OOJJCオーブンカレッジ（8講座） (音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習プログラム事業)</td> <td>207</td> </tr> <tr> <td>OOJJCオーブンカレッジ小学生講座</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>高校開放講座（4講座） (音更町・音更高等学校連携生涯学習プログラム事業)</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>生涯学習まちづくりセミナー (道民力カレッジ連携講座事業)</td> <td>延期</td> </tr> </tbody> </table>	事 業 名	参 加 人 数	生涯学習フエスティバル	中止	OOJJCオーブンカレッジ（8講座） (音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習プログラム事業)	207	OOJJCオーブンカレッジ小学生講座	中止	高校開放講座（4講座） (音更町・音更高等学校連携生涯学習プログラム事業)	36	生涯学習まちづくりセミナー (道民力カレッジ連携講座事業)	延期
事 業 名	参 加 人 数												
生涯学習フエスティバル	中止												
OOJJCオーブンカレッジ（8講座） (音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習プログラム事業)	207												
OOJJCオーブンカレッジ小学生講座	中止												
高校開放講座（4講座） (音更町・音更高等学校連携生涯学習プログラム事業)	36												
生涯学習まちづくりセミナー (道民力カレッジ連携講座事業)	延期												
5 施 設 の 整 備	<p>社会教育施設の整備を次のとおり実施した。</p> <p>(1) 改善センター整備事業 郷土資料室改修工事、多目的トイレ改修工事、展示資料作成委託、無線インターネット環境整備工事等を行なった。</p> <p>(2) 集団研修施設改修事業 屋上改修工事、暖房設備改修工事、外壁塗装改修設計委託 7,882,690円 59,668,400円</p>												

項目	成 績	教育委員会の点検・評価																																																																							
主 要 な 施 策	芸術鑑賞や発表の機会を提供するなど豊かな心を養うとともに、各文化団体と協力、連携し、芸術文化の奨励と向上に努めた。	(芸術文化大会参加補助金) 芸術文化大会参加補助は、芸術文化部門において優秀な成績を収めた者に対して補助しているもので、芸術文化の奨励と向上を図るために、今後も継続が必要である。																																																																							
6 文化・芸術事業	<p>芸術鑑賞や発表の機会を提供するなど豊かな心を養うとともに、各文化団体と協力、連携し、芸術文化の奨励と向上に努めた。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">(単位 人)</th> </tr> <tr> <th>事 業</th> <th>名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術文化大会参加補助金 (全道個人2件、全道団体2件、全国個人1件、全国団体5件)</td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>中学生芸術鑑賞会</td> <td></td> <td>498</td> </tr> <tr> <td>小学生芸術鑑賞会</td> <td></td> <td>1,344</td> </tr> <tr> <td>文化祭</td> <td></td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>芸術鑑賞事業（事業協会等との連携事業）</td> <td>9事業</td> <td>4,041</td> </tr> </tbody> </table>	(単位 人)		事 業	名	参加人数	芸術文化大会参加補助金 (全道個人2件、全道団体2件、全国個人1件、全国団体5件)		10	中学生芸術鑑賞会		498	小学生芸術鑑賞会		1,344	文化祭		中止	芸術鑑賞事業（事業協会等との連携事業）	9事業	4,041	<p>(芸術鑑賞会・小学生芸術鑑賞会)</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中学生については例年1・2年生を対象としているが2年生のみとし、小学校内での鑑賞を行わず、YouTube配信とDVDによることとした。なお、来年度以降についても、情操教育の一環として継続する必要がある。</p> <p>(文化祭)</p> <p>今年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を中止とした。芸能発表会や作品展示会を通じて人々の交流の場を広げ、地域に根ざした芸術文化活動を促進するため、今後もこれらの方々の活動を通じて人づくり・まちづくりを進めるために継続する必要がある。</p>																																																			
(単位 人)																																																																									
事 業	名	参加人数																																																																							
芸術文化大会参加補助金 (全道個人2件、全道団体2件、全国個人1件、全国団体5件)		10																																																																							
中学生芸術鑑賞会		498																																																																							
小学生芸術鑑賞会		1,344																																																																							
文化祭		中止																																																																							
芸術鑑賞事業（事業協会等との連携事業）	9事業	4,041																																																																							
7 文化センター利用状況	<p>事業別</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>鑑賞会</th> <th>発表会</th> <th>研修会</th> <th>演奏会</th> <th>講習会</th> <th>講 動</th> <th>講 座</th> <th>そ の 他</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人 数</td> <td>32,956</td> <td>2,884</td> <td>3,498</td> <td>1,580</td> <td>7,205</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>48,123</td> </tr> </tbody> </table> <p>各部屋別</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>大ホール</th> <th>小ホール</th> <th>楽屋1～3</th> <th>音楽室</th> <th>会議室</th> <th>実習室</th> <th>研修室2</th> <th>研修室3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人 数</td> <td>18,342</td> <td>6,511</td> <td>811</td> <td>2,913</td> <td>1,603</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2128</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>38.12%</td> <td>13.53%</td> <td>1.69%</td> <td>6.05%</td> <td>3.33%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.64%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>展示室</th> <th>作法室</th> <th>研修室1</th> <th>研修室2</th> <th>研修室3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人 数</td> <td>1,752</td> <td>227</td> <td>276</td> <td>602</td> <td>1,695</td> <td>48,123</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>3.64%</td> <td>0.47%</td> <td>0.57%</td> <td>1.25%</td> <td>3.52%</td> <td>100.00%</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	鑑賞会	発表会	研修会	演奏会	講習会	講 動	講 座	そ の 他	計	人 数	32,956	2,884	3,498	1,580	7,205				48,123	内 容	大ホール	小ホール	楽屋1～3	音楽室	会議室	実習室	研修室2	研修室3	計	人 数	18,342	6,511	811	2,913	1,603				2128	%	38.12%	13.53%	1.69%	6.05%	3.33%				2.64%	内 容	展示室	作法室	研修室1	研修室2	研修室3	計	人 数	1,752	227	276	602	1,695	48,123	%	3.64%	0.47%	0.57%	1.25%	3.52%	100.00%	<p>(芸術鑑賞事業)</p> <p>文化事業協会と連携し、児童向け鑑賞事業、演劇鑑賞事業やクラシックコンサートなどの音楽鑑賞事業のほか、各ジャンルで質の高い鑑賞事業を15事業計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定していた事業のうち6事業の中止を決めた結果、参加人数は例年より5,000人ほど少ないが、前年度比187人増となった。事業費の制約もあるが、今後も町民の鑑賞機会の充実を目指して取り組む必要がある。</p> <p>鑑賞会や発表会、講習会、各種サークル活動等に幅広く利用されており、住民の身近な施設としての役割を果たしている。今後も施設の適正な維持管理に努め、利用しやすい施設づくりを目指す。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により「緊急事態宣言」が発せられ、5月18日～6月20日までと8月27日～9月30日までの計69日間を臨時休館とした。その後、ホールの利用定員が緩和され、鑑賞会・発表会では前年度比8,212人増となつた。</p> <p>※展示催し物広場等：12,123人（25.19%）</p>
内 容	鑑賞会	発表会	研修会	演奏会	講習会	講 動	講 座	そ の 他	計																																																																
人 数	32,956	2,884	3,498	1,580	7,205				48,123																																																																
内 容	大ホール	小ホール	楽屋1～3	音楽室	会議室	実習室	研修室2	研修室3	計																																																																
人 数	18,342	6,511	811	2,913	1,603				2128																																																																
%	38.12%	13.53%	1.69%	6.05%	3.33%				2.64%																																																																
内 容	展示室	作法室	研修室1	研修室2	研修室3	計																																																																			
人 数	1,752	227	276	602	1,695	48,123																																																																			
%	3.64%	0.47%	0.57%	1.25%	3.52%	100.00%																																																																			

項目	成 果	教育委員会の点検・評価																																					
主要な施策																																							
8 文化センター改修事業	<p>文化センター改修事業を次のとおり実施した。</p> <p>(単位 円)</p> <table border="1"> <tr> <td>内 容</td> <td>事 業 費</td> </tr> <tr> <td>無線インターネット環境整備委託、LAN配線工事、モニュメント・屋外ステージ改修 野外広場再整備事業(カリヨン・モニュメント・屋外ステージ用ベンチ購入)</td> <td>20,856,330</td> </tr> </table>	内 容	事 業 費	無線インターネット環境整備委託、LAN配線工事、モニュメント・屋外ステージ改修 野外広場再整備事業(カリヨン・モニュメント・屋外ステージ用ベンチ購入)	20,856,330	<p>芸術文化活動や生涯学習等の活性化及び利便性向上を図るため、インターネット環境により、コロナ禍における感染防止対策を含め、野外広場の再整備により、新たに屋外イベントの開催など、新たな派手いの創出につながっているため、今後も有効的に活用していくことが必要である。</p>																																	
内 容	事 業 費																																						
無線インターネット環境整備委託、LAN配線工事、モニュメント・屋外ステージ改修 野外広場再整備事業(カリヨン・モニュメント・屋外ステージ用ベンチ購入)	20,856,330																																						
9 図書、視聴覚の振興	<p>(1) 図書館の利用状況</p> <p>①図書の貸出状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>貸 出 冊 数</th> <th>貸 出 人 数 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館</td> <td>159,555</td> <td>35,189人</td> </tr> <tr> <td>分館</td> <td>16,106</td> <td>4,509人</td> </tr> <tr> <td>団体</td> <td>31,771</td> <td>672件</td> </tr> <tr> <td>市町村連携貸出</td> <td>520</td> <td>277件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>207,952</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>②視聴覚教材の貸出状況</p> <p>(単位 件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区 分</td> <td>貸 出 件 数</td> </tr> <tr> <td>教材(ビデオ・DVD・CD)</td> <td>3,050</td> </tr> </table> <p>③図書館(本館)の入館者数</p> <p>56,457人</p> <p>④図書館の蔵書冊数等</p> <p>(単位 冊)</p> <table border="1"> <tr> <td>合 和 3 年 度 図 書 等 受 入 数</td> <td>除 籍 冊 数 等</td> <td>蔵 書 冊 数 等</td> </tr> <tr> <td>購 入</td> <td>寄 贈 等</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>4,631</td> <td>834</td> <td>5,465</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4,496</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>217,763</td> </tr> </table>	区 分	貸 出 冊 数	貸 出 人 数 等	図書館	159,555	35,189人	分館	16,106	4,509人	団体	31,771	672件	市町村連携貸出	520	277件	計	207,952		区 分	貸 出 件 数	教材(ビデオ・DVD・CD)	3,050	合 和 3 年 度 図 書 等 受 入 数	除 籍 冊 数 等	蔵 書 冊 数 等	購 入	寄 贈 等	計	4,631	834	5,465			4,496			217,763	<p>図書の貸出数は前年度と比較して3.2%減、入館者数は前年度と比較して1.8%減となっている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5月18日から6月20日まで、8月27日から9月30日までと2回にわたり臨時休館の措置をとったことにより開館日数が前年度より21日減少したことなどが大きな要因であると考えられるが、1日当たりの平均貸出数は前年度と比較して55.1冊の増、1日当たりの入館者数は11.6人の増となっており、利用状況は回復傾向にあると考えている。</p> <p>今後も新型コロナウイルス感染症が発生する前の利用状況に近づけるよう、各種事業や広報、ホームページなどを通して情報を発信し図書館利用を促進する必要がある。</p> <p>また、子どもの利用状況について、前年度と比較して1日当たりの平均貸出冊数は10.9冊の増となっているものの、新型コロナウイルス感染症発生前と比較して3分の2程度の利用となっていることから、令和3年1月に策定した「音更町子どもたちの読書活動推進計画(第3期)」に基づいた施策を展開し、子どもの読書活動を推進する必要がある。</p>
区 分	貸 出 冊 数	貸 出 人 数 等																																					
図書館	159,555	35,189人																																					
分館	16,106	4,509人																																					
団体	31,771	672件																																					
市町村連携貸出	520	277件																																					
計	207,952																																						
区 分	貸 出 件 数																																						
教材(ビデオ・DVD・CD)	3,050																																						
合 和 3 年 度 図 書 等 受 入 数	除 籍 冊 数 等	蔵 書 冊 数 等																																					
購 入	寄 贈 等	計																																					
4,631	834	5,465																																					
		4,496																																					
		217,763																																					

項目	成	果	教育委員会の点検・評価																												
主な施策																															
9 図書、視聴覚の振興	<p>(2) 図書館事業の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>読書感想文コンクール</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td>図書交換会</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>古本・古雑誌市</td> <td>232人</td> </tr> <tr> <td>子ども映画会</td> <td>74人</td> </tr> <tr> <td>芸術鑑賞講座</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>エッセイ教室</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>デジカメ写真絵本を作る講座</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>ぬいぐるみのおどまり会</td> <td>9組15人</td> </tr> <tr> <td>文庫設置</td> <td>小学校11校・学童保育所10カ所</td> </tr> <tr> <td>ブックスタート</td> <td>248組</td> </tr> <tr> <td>ブックスタートプラス</td> <td>277組</td> </tr> <tr> <td>リーディングスタート</td> <td>327組</td> </tr> <tr> <td>図書宅配サービス</td> <td>1,039件、3,913冊</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数等	読書感想文コンクール	42人	図書交換会	中止	古本・古雑誌市	232人	子ども映画会	74人	芸術鑑賞講座	20人	エッセイ教室	10人	デジカメ写真絵本を作る講座	12人	ぬいぐるみのおどまり会	9組15人	文庫設置	小学校11校・学童保育所10カ所	ブックスタート	248組	ブックスタートプラス	277組	リーディングスタート	327組	図書宅配サービス	1,039件、3,913冊	<p>古本・古雑誌市を屋外で実施するなど、新型コロナウイルス感染症の対策を施した上で、令和2年度には中止した事業の多くを安全安心な事業を展開し、町民の学習支援や読書活動の推進を行う必要がある。</p> <p>ブックスタート事業については、参加者アンケートの結果では、事業をきっかけに読書活動の推進にあたつて大変効果的である。小規模小学校を対象とした学級文庫、学童保育所とからは、子どもたちの読書活動の継続をしていく。今後も各学校及び学童保育所と連携しながら実施していく。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館とした際の対応として、読書活動の支援を行ったところである。</p>	
事業名	参加人数等																														
読書感想文コンクール	42人																														
図書交換会	中止																														
古本・古雑誌市	232人																														
子ども映画会	74人																														
芸術鑑賞講座	20人																														
エッセイ教室	10人																														
デジカメ写真絵本を作る講座	12人																														
ぬいぐるみのおどまり会	9組15人																														
文庫設置	小学校11校・学童保育所10カ所																														
ブックスタート	248組																														
ブックスタートプラス	277組																														
リーディングスタート	327組																														
図書宅配サービス	1,039件、3,913冊																														

項目	成 果	教育委員会の点検・評価																																																																				
主な施策																																																																						
(3) 社会体育の振興																																																																						
1 体力づくり、健康づくりの振興	<p>(3) 社会体育の振興</p> <p>1 体力づくり、健康づくりを実践する態度を育て、健康の維持増進に努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数 (単位人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○スポーツライフ</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>・幼児たいそう教室（幼児教育）</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>・チャレンジスボーツ教室（少年教育）</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>・いきいき女性陸スボーツ教室（成人教育）</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>・40歳～64歳までの軽スボーツ教室（成人教育）</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>・高齢者スポーツ学級（成人教育）</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>○スポーツ教室</td> <td>514</td> </tr> <tr> <td>・こども体操教室</td> <td>164</td> </tr> <tr> <td>・こどもH.I.P.H.O.P教室</td> <td>601</td> </tr> <tr> <td>・こどもトランボリン教室</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>・知育ボールスクール教室</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>・サンサン運動教室</td> <td>333</td> </tr> <tr> <td>・短期子供体操教室</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>・ジユニアトランボリン教室</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>・初心者スケート教室</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>・スボーツセミナー（スカッシュ）</td> <td>654</td> </tr> <tr> <td>・子ども水泳教室</td> <td>9,053</td> </tr> <tr> <td>・大人水泳教室</td> <td>301</td> </tr> <tr> <td>・短期こども水泳教室</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>・ひみつの特訓</td> <td>178</td> </tr> <tr> <td>・ステップアップ水泳教室</td> <td>1,056</td> </tr> <tr> <td>・ジュニアステップアップ水泳教室</td> <td>175</td> </tr> <tr> <td>・トップステップアップ水泳教室</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>・ベビースイミング教室</td> <td>242</td> </tr> <tr> <td>・ジュニアプラス教室</td> <td>399</td> </tr> <tr> <td>・個人レッスン（大人水泳）</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>・ちやっぽん水泳教室</td> <td>293</td> </tr> <tr> <td>・プライベートレッスン</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○体力づくり教室</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・エアロビクス</td> <td>1,388</td> </tr> <tr> <td>・レッスンプログラム</td> <td>12,664</td> </tr> <tr> <td>・水中運動</td> <td>5,109</td> </tr> <tr> <td>・軽運動教室</td> <td>522</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数 (単位人)	○スポーツライフ	95	・幼児たいそう教室（幼児教育）	18	・チャレンジスボーツ教室（少年教育）	54	・いきいき女性陸スボーツ教室（成人教育）	54	・40歳～64歳までの軽スボーツ教室（成人教育）	19	・高齢者スポーツ学級（成人教育）	48	○スポーツ教室	514	・こども体操教室	164	・こどもH.I.P.H.O.P教室	601	・こどもトランボリン教室	41	・知育ボールスクール教室	34	・サンサン運動教室	333	・短期子供体操教室	20	・ジユニアトランボリン教室	中止	・初心者スケート教室	48	・スボーツセミナー（スカッシュ）	654	・子ども水泳教室	9,053	・大人水泳教室	301	・短期こども水泳教室	180	・ひみつの特訓	178	・ステップアップ水泳教室	1,056	・ジュニアステップアップ水泳教室	175	・トップステップアップ水泳教室	96	・ベビースイミング教室	242	・ジュニアプラス教室	399	・個人レッスン（大人水泳）	71	・ちやっぽん水泳教室	293	・プライベートレッスン		○体力づくり教室		・エアロビクス	1,388	・レッスンプログラム	12,664	・水中運動	5,109	・軽運動教室	522	<p>(スポーツライフ)</p> <p>総合体育館と温水プールでは、幼児から高齢者まで幅広い年代の方々に運動やスポーツに親しみ機会を提供するため、各種事業を継続的に開催している。</p> <p>スボーツライフでは、中・長期の教室等を実施しており、各教室の参加者同士が交流する場ともなっており、今後も継続が必要と考える。新型コロナウイルス感染症対策のため一部の日程を中止とした。</p> <p>(スポーツ教室)</p> <p>スボーツ教室は、教育委員会が管理していた当時から実施しているものと、指定管理者が実施しているものがあるが、今後も住民のニーズを把握しながら、継続していくことが必要となる。初心者スケート教室はリンク未造成のため中止となつた。新型コロナウイルス感染症対策のため一部の日程を中止とした。</p> <p>(体力づくり教室)</p> <p>エアロビクスや水中運動など、各年代や体力に応じたプログラムを実施している。民間のノウハウを生かした大人のためのスタジオプログラムは、指定管理者制度がスタートした平成18年度に比べ多くの人が参加している。今後も住民のニーズを把握しながら、プログラムを工夫していくことが必要である。新型コロナウイルス感染症対策のため一部の日程を中止とした。</p>
事業名	参加人数 (単位人)																																																																					
○スポーツライフ	95																																																																					
・幼児たいそう教室（幼児教育）	18																																																																					
・チャレンジスボーツ教室（少年教育）	54																																																																					
・いきいき女性陸スボーツ教室（成人教育）	54																																																																					
・40歳～64歳までの軽スボーツ教室（成人教育）	19																																																																					
・高齢者スポーツ学級（成人教育）	48																																																																					
○スポーツ教室	514																																																																					
・こども体操教室	164																																																																					
・こどもH.I.P.H.O.P教室	601																																																																					
・こどもトランボリン教室	41																																																																					
・知育ボールスクール教室	34																																																																					
・サンサン運動教室	333																																																																					
・短期子供体操教室	20																																																																					
・ジユニアトランボリン教室	中止																																																																					
・初心者スケート教室	48																																																																					
・スボーツセミナー（スカッシュ）	654																																																																					
・子ども水泳教室	9,053																																																																					
・大人水泳教室	301																																																																					
・短期こども水泳教室	180																																																																					
・ひみつの特訓	178																																																																					
・ステップアップ水泳教室	1,056																																																																					
・ジュニアステップアップ水泳教室	175																																																																					
・トップステップアップ水泳教室	96																																																																					
・ベビースイミング教室	242																																																																					
・ジュニアプラス教室	399																																																																					
・個人レッスン（大人水泳）	71																																																																					
・ちやっぽん水泳教室	293																																																																					
・プライベートレッスン																																																																						
○体力づくり教室																																																																						
・エアロビクス	1,388																																																																					
・レッスンプログラム	12,664																																																																					
・水中運動	5,109																																																																					
・軽運動教室	522																																																																					

項目	成	果	教育委員会の点検・評価										
主要な施策													
1 体力づくり、健康づくりの振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツ大会           <ul style="list-style-type: none"> <li>すずらん駅伝小学生大会兼健康マラソン大会</li> <li>・町民スケート大会</li> <li>・町民体育祭（剣道、バドミントン、ソフトボール）</li> <li>・秋のスポーツ大会（ハーフマラソン、弓道、柔道、バドミントン、フロアボクシング）</li> <li>・冬季スポーツ大会</li> </ul> </li> </ul>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">中止</td> <td style="text-align: center;">中止</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">258</td> <td style="text-align: center;">143</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">中止</td> <td></td> </tr> </table>	中止	中止	258	143	中止		(スポーツ大会) 町スポーツ協会とその加盟団体は、教育委員会と共に「各種大会」を開催することで、日頃の練習成績を発揮し合い、参加者同士の交流と親睦を深めることができる機会が充実している。今後も継続が必要である。新型コロナウィルス感染症対策のため、マラソン大会と町民スケート大会を中止とした。また、冬季スポーツ大会は実施種目がなかった。				
中止	中止												
258	143												
中止													
2 指導者、リーダーの養成	<p>スポーツ指導者及びリーダーを養成するため次のとおり実施した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">事業</td> <td style="width: 50%;">(単位 人)</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ少年団リーダー研修会</td> <td>名 参加人数 中止 中止</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ指導者研修会</td> <td></td> </tr> </table>	事業	(単位 人)	・スポーツ少年団リーダー研修会	名 参加人数 中止 中止	・スポーツ指導者研修会		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">(スポーツ少年団リーダー研修会)</td> <td style="width: 50%;">(スポーツ指導者研修会)</td> </tr> <tr> <td>所属のスポーツ少年団でリーダーとして活動するための自覚と資質の向上を図るとともに、団相互の交流を深めることを目的としており、今後も継続が必要である。新型コロナウィルス感染症対策のため中止とした。</td> <td>スポーツ指導者の中核となるべき指導者を養成することは極めて重要であることをから、今後も研鑽する場を提供することが必要である。新型コロナウィルス感染症対策のため中止とした。</td> </tr> </table>	(スポーツ少年団リーダー研修会)	(スポーツ指導者研修会)	所属のスポーツ少年団でリーダーとして活動するための自覚と資質の向上を図るとともに、団相互の交流を深めることを目的としており、今後も継続が必要である。新型コロナウィルス感染症対策のため中止とした。	スポーツ指導者の中核となるべき指導者を養成することは極めて重要であることをから、今後も研鑽する場を提供することが必要である。新型コロナウィルス感染症対策のため中止とした。	(スポーツ少年団リーダー研修会) 所属のスポーツ少年団でリーダーとして活動するための自覚と資質の向上を図るとともに、団相互の交流を深めることを目的としており、今後も継続が必要である。新型コロナウィルス感染症対策のため中止とした。
事業	(単位 人)												
・スポーツ少年団リーダー研修会	名 参加人数 中止 中止												
・スポーツ指導者研修会													
(スポーツ少年団リーダー研修会)	(スポーツ指導者研修会)												
所属のスポーツ少年団でリーダーとして活動するための自覚と資質の向上を図るとともに、団相互の交流を深めることを目的としており、今後も継続が必要である。新型コロナウィルス感染症対策のため中止とした。	スポーツ指導者の中核となるべき指導者を養成することは極めて重要であることをから、今後も研鑽する場を提供することが必要である。新型コロナウィルス感染症対策のため中止とした。												
3 奨励及び顕彰	<p>スポーツの奨励と向上を図るため次のとおり実施した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">事業</td> <td style="width: 50%;">(単位 人)</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ大会参加補助</td> <td>名 人 数 21件 24</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ賞等表彰</td> <td>(全国 42件) (個人) (団体) 162 15 7</td> </tr> </table>	事業	(単位 人)	・スポーツ大会参加補助	名 人 数 21件 24	・スポーツ賞等表彰	(全国 42件) (個人) (団体) 162 15 7	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">(スポーツ大会参加補助)</td> <td style="width: 50%;">(スポーツ賞等表彰)</td> </tr> <tr> <td>全国大会への参加者に対しても継続する一部を補助している。スポーツ振興のため今後も継続する必要がある。新型コロナウィルス感染症の感染対策を実施しながら大会等が開催されたため、申請件数が増加した。</td> <td>スポーツ大会規模のスポーツ大会への参加者に対しても継続する必要がある。新型コロナウィルス感染症の感染対策を実施(スポーツ賞等表彰)</td> </tr> </table>	(スポーツ大会参加補助)	(スポーツ賞等表彰)	全国大会への参加者に対しても継続する一部を補助している。スポーツ振興のため今後も継続する必要がある。新型コロナウィルス感染症の感染対策を実施しながら大会等が開催されたため、申請件数が増加した。	スポーツ大会規模のスポーツ大会への参加者に対しても継続する必要がある。新型コロナウィルス感染症の感染対策を実施(スポーツ賞等表彰)	(スポーツ大会参加補助) 全国大会規模のスポーツ大会への参加者に対しても継続する必要がある。新型コロナウィルス感染症の感染対策を実施(スポーツ賞等表彰) スポーツ大会規模のスポーツ大会への参加者に対しても継続する必要がある。新型コロナウィルス感染症の感染対策を実施(スポーツ賞等表彰)
事業	(単位 人)												
・スポーツ大会参加補助	名 人 数 21件 24												
・スポーツ賞等表彰	(全国 42件) (個人) (団体) 162 15 7												
(スポーツ大会参加補助)	(スポーツ賞等表彰)												
全国大会への参加者に対しても継続する一部を補助している。スポーツ振興のため今後も継続する必要がある。新型コロナウィルス感染症の感染対策を実施しながら大会等が開催されたため、申請件数が増加した。	スポーツ大会規模のスポーツ大会への参加者に対しても継続する必要がある。新型コロナウィルス感染症の感染対策を実施(スポーツ賞等表彰)												
4 スポーツヘルスケア推進事業	<p>運動習慣の定着や食生活の改善を促すため次のとおり実施した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">事業</td> <td style="width: 50%;">(単位 人)</td> </tr> <tr> <td>・健康増進プログラム事業</td> <td>名 参加人数 1名 497</td> </tr> </table>	事業	(単位 人)	・健康増進プログラム事業	名 参加人数 1名 497	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">(スポーツヘルスケア)</td> <td style="width: 50%;">(町民の健康意識の変容と運動習慣の定着を図るため、新たに健康増進プログラム事業を委託事業として実施した。</td> </tr> </table>	(スポーツヘルスケア)	(町民の健康意識の変容と運動習慣の定着を図るため、新たに健康増進プログラム事業を委託事業として実施した。	(スポーツヘルスケア) 町民の健康意識の変容と運動習慣の定着を図るため、新たに健康増進プログラム事業を委託事業として実施した。				
事業	(単位 人)												
・健康増進プログラム事業	名 参加人数 1名 497												
(スポーツヘルスケア)	(町民の健康意識の変容と運動習慣の定着を図るため、新たに健康増進プログラム事業を委託事業として実施した。												
5 地域おこし協力隊の配置	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">地域おこし協力隊（スポーツコーディネーター）報酬</td> <td style="width: 50%;">1名 2,090,116円</td> </tr> <tr> <td>地域おこし協力隊活動費</td> <td>1,413,565円</td> </tr> </table>	地域おこし協力隊（スポーツコーディネーター）報酬	1名 2,090,116円	地域おこし協力隊活動費	1,413,565円	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">(地域おこし協力隊)</td> <td style="width: 50%;">(地域おこし協力隊の配置)</td> </tr> <tr> <td>任用期間令和2年4月1日～令和4年3月31日</td> <td>地域のスポーツを通じての地域おこしの創造、地方の再生を目的とし、スポーツを通じての地域おこしを行っている。サッカーライセンス等の開催。</td> </tr> </table>	(地域おこし協力隊)	(地域おこし協力隊の配置)	任用期間令和2年4月1日～令和4年3月31日	地域のスポーツを通じての地域おこしの創造、地方の再生を目的とし、スポーツを通じての地域おこしを行っている。サッカーライセンス等の開催。	(地域おこし協力隊) 任用期間令和2年4月1日～令和4年3月31日 地域のスポーツを通じての地域おこしの創造、地方の再生を目的とし、スポーツを通じての地域おこしを行っている。サッカーライセンス等の開催。		
地域おこし協力隊（スポーツコーディネーター）報酬	1名 2,090,116円												
地域おこし協力隊活動費	1,413,565円												
(地域おこし協力隊)	(地域おこし協力隊の配置)												
任用期間令和2年4月1日～令和4年3月31日	地域のスポーツを通じての地域おこしの創造、地方の再生を目的とし、スポーツを通じての地域おこしを行っている。サッカーライセンス等の開催。												

項目	主な施設	成績	教育委員会の点検・評価																																																																																									
6 施設の利用状況	(1) 屋内体育施設 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">（単位 人、件）</th> </tr> <tr> <th>施設名</th> <th>個人利用件数</th> <th>団体利用件数</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合体育館</td> <td>32,463</td> <td>3,437</td> <td>49,515</td> </tr> <tr> <td>武道館</td> <td>742</td> <td>739</td> <td>27,412</td> </tr> <tr> <td>温水プール</td> <td>44,934</td> <td>98</td> <td>2,326</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>47,260</td> </tr> </tbody> </table> (2) 軽スポーツセンター <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">（単位 人、件）</th> </tr> <tr> <th>施設名</th> <th>件数</th> <th>人數</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鈴蘭軽スポーツセンター</td> <td>806</td> <td>9,067</td> <td></td> </tr> <tr> <td>宝来軽スポーツセンター</td> <td>756</td> <td>9,497</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> (3) 運動公園等 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">（単位 人）</th> </tr> <tr> <th>施設名</th> <th>件数</th> <th>人數</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>希望が丘野球場</td> <td>1</td> <td>3,432</td> <td>（中央公園）</td> </tr> <tr> <td>ソフトボール場（1か所、2面）</td> <td>1</td> <td>1,543</td> <td>（音更町サッカーフィールド）</td> </tr> <tr> <td>サッカーフィールド（1か所、2面）</td> <td>1</td> <td>23,844</td> <td>（希望が丘、緑陽台、木野北）</td> </tr> <tr> <td>テニスコート（3か所、10面）</td> <td>10</td> <td>3,415</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アイスホッケー場</td> <td>1</td> <td>2,426</td> <td></td> </tr> <tr> <td>カーリング場</td> <td>1</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>パークゴルフ場（4コース）</td> <td>4</td> <td>48,226</td> <td></td> </tr> <tr> <td>（うち団体利用）</td> <td>4</td> <td>（7,875）</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> (4) 学校開放事業 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種目指定開放校（11校）</th> <th>地域開放校（6校）</th> <th>計</th> <th>（単位 人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23,323</td> <td>2,188</td> <td>25,511</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	（単位 人、件）				施設名	個人利用件数	団体利用件数	計	総合体育館	32,463	3,437	49,515	武道館	742	739	27,412	温水プール	44,934	98	2,326				47,260	（単位 人、件）				施設名	件数	人數		鈴蘭軽スポーツセンター	806	9,067		宝来軽スポーツセンター	756	9,497		（単位 人）				施設名	件数	人數		希望が丘野球場	1	3,432	（中央公園）	ソフトボール場（1か所、2面）	1	1,543	（音更町サッカーフィールド）	サッカーフィールド（1か所、2面）	1	23,844	（希望が丘、緑陽台、木野北）	テニスコート（3か所、10面）	10	3,415		アイスホッケー場	1	2,426		カーリング場	1	100		パークゴルフ場（4コース）	4	48,226		（うち団体利用）	4	（7,875）		種目指定開放校（11校）	地域開放校（6校）	計	（単位 人）	23,323	2,188	25,511		(屋内体育施設) （軽スポーツセンター） （運動公園等） (学校開放事業)	(屋内体育施設) （軽スポーツセンター） （運動公園等） (学校開放事業)	(施設全般) （屋内体育施設） （軽スポーツセンター） （運動公園等） (学校開放事業)
（単位 人、件）																																																																																												
施設名	個人利用件数	団体利用件数	計																																																																																									
総合体育館	32,463	3,437	49,515																																																																																									
武道館	742	739	27,412																																																																																									
温水プール	44,934	98	2,326																																																																																									
			47,260																																																																																									
（単位 人、件）																																																																																												
施設名	件数	人數																																																																																										
鈴蘭軽スポーツセンター	806	9,067																																																																																										
宝来軽スポーツセンター	756	9,497																																																																																										
（単位 人）																																																																																												
施設名	件数	人數																																																																																										
希望が丘野球場	1	3,432	（中央公園）																																																																																									
ソフトボール場（1か所、2面）	1	1,543	（音更町サッカーフィールド）																																																																																									
サッカーフィールド（1か所、2面）	1	23,844	（希望が丘、緑陽台、木野北）																																																																																									
テニスコート（3か所、10面）	10	3,415																																																																																										
アイスホッケー場	1	2,426																																																																																										
カーリング場	1	100																																																																																										
パークゴルフ場（4コース）	4	48,226																																																																																										
（うち団体利用）	4	（7,875）																																																																																										
種目指定開放校（11校）	地域開放校（6校）	計	（単位 人）																																																																																									
23,323	2,188	25,511																																																																																										
6 施設の利用状況	(5) 指定管理者制度導入 <p>次の社会体育施設について、指定管理者制度を導入している。</p> <p>(1) 温水プール 平成18年度～  (2) 総合体育館・武道館 平成19年度～</p>	(5) 指定管理者制度導入 <p>次回の社会体育施設について、指定管理者制度を導入するとしている。  (1) 温水プール 平成18年度～  (2) 総合体育館・武道館 平成19年度～</p>	(5) 指定管理者制度導入 <p>次回の社会体育施設について、指定管理者制度を導入するとしている。  (1) 温水プール 平成18年度～  (2) 総合体育館・武道館 平成19年度～</p>																																																																																									

## 4 昨年度の学識経験者からの主な意見と対応状況

意 見	対応状況
<p>【総合的な評価】</p> <p>教育行政執行方針に基づき、音更町教育大綱の2本の柱である「子どもの教育」と「生涯学習」の充実・発展に向けて、各種の事業や施策が教育委員会会議を経て組織的・機動的に推進されていることに対して評価したい。</p>	<p>令和3年度より音更町教育大綱を「生きる力、支える力を育むまち」に改め、次代を担う子どもたちの生きる力を培うとともに、誰一人取り残さない教育・学習・文化活動を総合的に展開し、生涯にわたり健康で充実した生活を送ることができるよう、「子どもの教育」と「生涯学習」を2本の柱として引き続き教育行政を推進する</p>
<p>【教育委員会の活動状況】</p> <p>教育委員会の会議の開催状況については、定期会に加え臨時会を4回開催している。特に新型コロナウイルス感染症に関する対応等が適宜報告されており迅速な対応がなされている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が終息するまでには相応の時間が要すると指摘されている今日の社会では、豊かな人間性を育みながら社会で自立するための「確かな力」を一人ひとりの子ども達に育ませるために対策や、新たな教育施策の推進が求められている。</p> <p>こうした中で、教育委員会会議では、委員相互の意思疎通を図るための会議の工夫がなされており活性化が図られている。また、学校訪問を通して、学力・体力向上の取組や、いじめや不登校の状況等について、各学校と意見交換が行われており、教育行政と学校現場との距離感を縮める機能が果たされている。</p> <p>今後も不測の事態に備え、より一層、臨機応変に機能できるよう求めるとともにインターネット会議システムを活用した遠隔会議の実施の検討など教育行政の円滑かつ確実な実施に向けた取組が期待される。</p> <p>また、今回は各種学校行事等の訪問や研修会等の参加については中止となつたが、教育を巡る現状や課題を常に把握しながら情報提供をしていくことを工夫しながら取組んでほしい。</p>	<p>令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、定期的な会議の開催と意見交換の場を設け、活発な議論が行われている。</p> <p>学校訪問では、テーマを「新型コロナウイルス感染症を契機とする学習・学校生活の変化について」とし、新しい生活様式を確立していく中で、授業や学校行事など児童生徒の学習・学校生活と教職員の指導内容がどう変化しているのか現状の把握を行った。GIGAスクール構想によるタブレット端末の整備が進んだことによりコロナ禍でも学びの保障を行うこと、多様性に対応できる確かな力を育むため、アクティブ・ラーニングの実践が必要であることを確認するとともに、ICT教育に係る授業改善方法に課題があることを確認した。そのほか、密を防ぐ観点から直接の授業参観はできなかつたため、リモートにより授業の様子を見るなど学校のICTの活用状況を把握し、校長・教頭のほか主幹教諭を交え、各学校の運営方法や課題、児童生徒や教職員の様子など意見交換を行つた。</p> <p>教育委員の研修については、令和2年度同様に新型コロナウイルス感染症対策により、予定していた研修会等が中止となつたが、リモートで開催された研修は全員参加し、各々研鑽に努めた。</p> <p>今後も教育を巡る現状や課題を学び、教育委員会会議の審議の活性化に向け積極的に参加していく。</p>

意 見	対応状況
<p>【重点的な評価】</p> <p>〈確かな学力の向上〉</p> <p>児童生徒の学力の確かな向上に向け、基礎的・基本的な知識や技能、及びそれらを活用する力を身につけるためのきめ細かな教育を推進する観点から、町費負担の臨時教諭、学習支援員、複式教育学習支援員等を配置しているほか、学習支援員の研修機会の充実に向けた取組などを行っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、子ども達を取り巻く教育環境は大きく変化しており、学校現場においては、さまざまなストレスが及ぼす子ども達の発達への影響を考慮し、子ども達のレジリエンスの強化を図りながら教育活動を進めていくことが必要となる。</p> <p>令和2年度はコロナ禍のために実施できなかつた「全国学力・学習状況調査」に代わる「はつかいどうチャレンジテスト」を活用した調査結果が示されている。</p> <p>それによると、小学6年生は、国語・算数とともに、全ての領域で全道平均を上回る結果であり、中学3年生では、国語は全道平均と同程度、数学は全道平均を上回る結果となっている。</p> <p>一方、問題別に見た場合、小学6年生の国語では、「事実と意見とを区別して書くことができるかどうかを見る問題」、算数では、「直径、円周、円周率の関係について理解しているかどうかを見る問題」、中学3年生の国語では「自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことができるかどうかを見る問題」、数学では「連立方程式を解く過程を振り返り、事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができるかどうかを見る問題」の正答率が低い結果となっている。</p> <p>発見的な学びや問題解決的な学び、体験的な学び等を通して、児童・生徒一人ひとりの内発的動機付けを図る学習指導の改善を進めるとともに、学力下位層の児童生徒のLDの傾向の</p>	<p>確かな学力の向上に向け、課題を分かりやすく示し、目標を実現するための学習活動を適切に位置づけ、課題に対するまとめを行い、学習内容の定着を図る授業づくりを進めている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症流行の長期化に伴い教育活動への制限が続くことで、児童生徒は通常とは違うストレスを感じている。このような状況の中、各学校では、学級活動や学校行事など教育活動全体を通して、自己肯定感を高め、困難や変化を乗り越えていけるしなやかで強い心の育成に取り組んでいる。</p> <p>令和3年度は、2年ぶりに全国学力・学習状況調査が実施され、調査結果の分析・検証を行った。小学校においては、チャレンジテストの活用や補充学習等による習熟度に応じた児童の学力の向上、中学校においては、小学校との円滑な接続を進め、学びの連続性の確保に努めている。</p> <p>また、指導方法工夫改善や少人数学級実践研究事業など各種の教職員加配の活用をはじめ、町費負担教諭や学習支援員の配置を継続し、きめ細かな学習サポートを進めている。</p> <p>学校現場における授業改善については、町内3小学校において、「授業改善推進チーム」の加配を活用し、学級担任とのチーム・ティーチングにより、授業改善を推進し、低位児童の見取りや学習支援、学級の実態に即した補充的な学習を行うことにより、「主体的・対話的で深い学び」の推進に努めている。そのほか、学校教育における合理的配慮を必要とする児童生徒の学習活動及び学校生活上の支援の充実を図る取組みの一環として、学習支援員のスキル向上と児童生徒理解のための研修会を開催した。</p> <p>また、小学校、中学校を通して、家庭での学習習慣の確立に向けた啓蒙・啓発活動について、学校、PTAとも連携して進めている。</p>

意 見	対応状況
<p>有無についても把握に努め、その対策を講ずることに期待したい。また、小学校においては、引き続き「家庭学習の手引き」などを活用し、家庭との連携の強化が求められる。</p> <p>近年は障害者差別解消法の施行により行政執行においては障がい者に対する合理的配慮が求められている中、学校教育における合理的配慮の具現化として、今後とも一層の取組が期待される。その他、少人数学級実践研究事業等を活用した学習環境の向上として教員の加配などを行っており、教育に関わる人材の充実が図られている。</p> <p>(健やかな体の育成)</p> <p>学校教育においては、健やかな体づくりは発達・成長の面からも重要である。運動能力や体力は健康に大きな影響を与える要素であり、生涯発達や生きる力の醸成においても大きな関わりを持つものである。</p> <p>身体能力の基礎は学童期から青年期にかけ大きく成長することから、児童生徒の健やかな体の育成は生涯にわたり影響を及ぼすため、その発達・成長を学校教育の中で支えていくことが重要である。</p> <p>小学5年生と中学2年生を対象に実施されている「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果によると、小学5年生男子・女子ともに体力合計点が前年度に比べ全国・全道平均を下回る結果となった。中学2年生男子は全国全道平均ともに下回り、中学2年生女子は全道平均を上回ったが全国平均は下回り、その差も前年度に比べ僅かに広がった。</p> <p>課題の残る種目について、音更町教育研究所の「音更町の子どもの体力と今後の取組」の分析によると、小学生男子・女子では共に「50m走」「上体起こし」「長座体前屈」が、そして中学校男子・女子では共に「長座体前屈」「上体起こし」「反復横とび」に課題があることを指摘し、それぞれの課題の向上を目指した指導の充</p>	<p>令和3年度は、2年ぶりに全国体力・運動能力、運動習慣等調査が実施され、分析結果を踏まえた年間指導計画に基づく学校全体の体力づくりの推進に継続的に取り組んでいる。体育専科教員の加配による体育授業の充実についても継続して実施した。</p> <p>また、コロナ禍にあっても健康で明るく元気な生活が送れるよう、日常的な健康指導の充実、健康教育の組織的な実践を推進している。家庭における生活習慣等については、新体力テストの分析結果等の情報を各家庭に提供することにより、健康的な生活習慣の形成を図り、体力・運動能力や学習意欲の向上に努めている。</p>

意 見	対応状況
<p>実を求めている。</p> <p>小学5年生・中学2年生男女ともに体育科の授業に対する意識は高く、加えて「好き」と答えている割合は全道・全国平均を上回っている実態を鑑みて、今後も運動を楽しむことができる授業づくりに取組むとともに、積極的に運動ができるような環境づくりを、家庭との連携や地域の人材資源の活用を図りながら進めることが期待される。</p>	
<p>また、食育に関しては、自校給食の特色を最大限に生かした「おとづけ給食」を通して、地産地消や地場産品の理解を深めさせるなど指導の充実が図られているが、近年の食物アレルギーを持つ児童生徒への対応として、今後も家庭との緻密な連携は欠かせないものと考える。</p>	<p>地場産品を学校給食の献立に取り入れた月1回の「おとづけ給食」を継続実施。校内放送や家庭に資料を配付して使用食材を紹介し、児童生徒や保護者に地場産品の理解と食に関する指導を行っている。食物アレルギーについては、給食だけで啓発を行い、保護者の理解を深め、アレルギーを持つ児童生徒が安全安心な給食を楽しめるよう、保護者や学校、関係機関と情報の共有を図っている。</p>
<p>(豊かな心の育成)</p> <p>いじめ・不登校など学校教育を取り巻く問題として各所との連携を通じ、総合的な対応が求められる。近年はチーム学校やコミュニティスクールといった専門家や地域との連携の下、様々な取組が試行されている。いじめや不登校といった学校教育が抱える課題についても専門家や地域の支えを問題解決に活かす取組が有効である。いじめ対策の取組として、「音更町いじめ防止基本方針」に基づき令和2年に実施した「いじめに関する実態調査」では、4月以降に「嫌な思いをした」と回答した小学生が541件、中学生が45件あり、その中で今も「嫌な思いをしている」と回答した小学生が189件、中学生が13件となっている。嫌な思いをした際の相談相手は、小中学生共に「父や母」が一番多く、2番目が、小学1・2年生は「学校の先生」、小学3～6年生と中学生は「友人」、3番目が、小学1・2年生は「ともだち」で、小学3～6年生と中学生は「学校の先生」となっている。</p> <p>また、「誰にも相談しない」と回答した小中学</p>	<p>いじめについては、未然防止と早期発見・早期解消のため、心の教室相談員や学校教育相談員を配置するとともに、北海道教育委員会が実施するスクールカウンセラー活用事業による相談体制を構築しているほか、各学校においては、教職員に加え、PTAや地域とも連携し、問題解決に取り組んでいる。</p> <p>令和3年10月から11月にかけて実施した「いじめに関するアンケート調査」では、小学生2,385人、中学生1,391人に協力いただき、「いやな思いをしたことがある」と回答した小学生が528人(22.1%)、中学生が56人(4.0%)であり、そのなかで今でも続いていると答えた小学生が225人(42.6%)、中学生が20人(35.7%)となっている。各学校の教育相談により本年3月までに解消しているが、小学校で減少傾向にあるものの、中学校では増加傾向となっている。</p> <p>また、嫌な思いをした際の相談相手は、小学生では「父や母」が最も多く、低学年で32.9%、中・高学年で31.0%、中学生では「友人」が最も多く</p>

意 見	対応状況
<p>生が一定数存在し、その割合が小学生高学年と中学生では増えている。</p>	<p>30.8%となっている。一方で、「誰にも相談しない」とする回答では、小学生の低学年で2.3%、中・高学年で5.1%、中学生で6.4%と昨年とほぼ横ばいとなっている。(割合は、複数選択を可能とする設問から回答数に対するもの。)</p>
<p>いじめ問題は、教育上の最重要課題の一つとして位置づけられ、相談体制についても、平成31年度から新たに中学校を拠点校としたスクールカウンセラーが配置されるなど、いじめの未然防止や早期発見に向けた一層の充実が図られるとともに、学校現場においても、道徳教育の中で「いじめ問題」を題材に取り上げるなど、きめ細かな対策が講じられているが、誰にも相談しない児童・生徒が一定数いることを考えると、様々な相談窓口の利用ツールを周知させることも重要である。</p>	<p>引き続き、各学校における児童生徒の小さな変化を見逃さない姿勢、相談しやすい環境と信頼関係の構築について指導するとともに、児童生徒の相談窓口についても町のホームページ等にて周知を図る。</p>
<p>その一方で、「いじめ根絶」の難しさが、アンケート調査の中からも垣間見られる。「いじめについてどう考えているか」を問う自由記載欄の中で、一部の児童生徒が述べていることに象徴されている通り、「いじめはどんな理由があっても許されないこととは思わない」と回答した小学1～2年生の割合が3.0%(24人)、小学3～6年生の割合が3.3%(57人)、中学生が2.3%(31人)となっている。</p>	<p>さらに「いじめはどんな理由があっても許されないこととは思わない」と回答した小学生の低学年が24人(3.2%)、中・高学年で73人(4.5%)、中学生で25人(1.8%)となっているが、いじめは児童生徒の心身の健全な発達に重大な悪影響を及ぼし、不登校や自殺などを引き起こす背景ともなる深刻な問題であることから、「そう思う」の回答率が100%となるよう今後も指導を継続する。</p>
<p>「他者と関わる時の自我状態」という心理療法の視点からこのことを考えたとき、子どもは、親の影響を強く受け継いだ思考・感情・行動を無意識のうちにに行っていることが、「交流分析」の結果明らかにされている。コロナ禍の中にあって、大人社会の差別や偏見が改めて指摘されている今日、保護者との更なる連携を視野に入れ、人権に特化したPTA研修などの取組が求められる。</p>	<p>不登校については、148人と増加傾向で推移しており、このうち約半数が、前年度においても不登校であった。心の教室相談員、スクールカウンセラー、適応指導教室指導員(※適応指導教室の名称について令和3年度中に検討を行い、令和4年度より、適応指導教室から教育支援センターに名称を変更した。)及び学校教育相談員の活用により、児童生徒の不登校に対しての早期の対応と、個々の児童生徒の状態に応じた指導や段階的な関わりを行っている。また、学校内の連携はもちろんのこと、関係機関との連携を図り、保護者も含めたサポート体制の充実に取り組んでいる。</p>
<p>不登校に関しては、先述の相談体制の充実に加えて単に不登校の解消のみならず、児童生徒の社会的自立に向けた支援の充実が求められる。具体的には、ふれあい教室(適応指導教室)の拡充が考えられる。不登校の児童生徒は年々増加しているが、本町の人口分布からは市街地南部に人口が集中しており、現在の市街地の郊外北部の立地的課題や不登校の児童生徒数の増</p>	<p>なお、不登校児童生徒の現状を踏まえ、令和3年10月、木野地区に適応指導教室(ふれあい柳町教室「ほっと」)を開設し、支援の充実に努めている。</p> <p>いじめや不登校につながる児童生徒の状況の早期把握と、学級集団と個の分析により、学級内の児童生徒の状態を知り、生徒指導上の問題点や対応策を探る第一歩として、ハイパーQUの取組</p>

意 見	対応状況
<p>加に対し通級者数が低位持続しているという課題がある。現在の施設設備や環境面でのメリット、また、市街地から離れているからこそ他の目を気にせず通える良さもあることから、市街地に増設することで児童生徒が選択できるよう配慮することが望ましいと考えられる。</p>	<p>を継続している。また、結果の読み取り方や分析の方法、結果を活用し学級経営に生かすための教員に対する研修会を行った。</p>
<p>今後、教育相談体制の整備・充実を期待するとともに、教育の機会が損なわれないようICTを活用した授業の展開やその更なる充実のための教員研修等の実施が期待される。</p>	
<p><b>【教育行政推進における主要な施策の実施状況】</b>  <b>(文教対策)</b></p> <p>教員研修については、コロナ禍の中で研修会の中止を余儀なくされ、例年に比べ参加し難い状況にあったものの、校内研修実践指定校事業の推進を通じて学校内での創意工夫による研修機会の確保が行われている。今後もこうした事態が繰り返されることも考慮し、校内での研修体制の整備も期待されるところである。また、校外研修に関しては、参加した教員が校内で伝達研修を行うなど参加機会の少ない校外研修を有効に活用することも考えられる。その他、北海道教育委員会の行う研修会ではインターネット会議システムを用いた遠隔参加も行われていることから、そのような研修への参加に向けた校内環境の整備も求められる。</p> <p>学校現場には、昨年度から小学校、本年度から中学校と順次、新学習指導要領が導入された。中でも令和3年度は、GIGAスクール構想元年と言われ、子ども達がグローバル化し高度情報化した社会の中で、主体的に生きる力を身につけるため、「理数探求」や「総合的な学習の時間」等において、問題発見・解決的な学習活動の充実を目指して、本格的な運用が開始される。1人1台の端末環境を活かした授業を通して、児童・生徒にどのような資質・能力を育成するこ</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策により、道内で実施する研修の多くはリモートでの開催となったことから、学校内での参加が可能となり、多くの教職員が移動を伴わず出席できるようになった。また、校内研修実践指定校事業などを通じ、創意工夫された校内研修を各学校とも実践している。令和3年度の多くはICTに関わる研修であり、情報共有をしながら授業等への活用に向かって各々が研鑽し、小中学校におけるICT教育の運用に大いに寄与していると考えられる。</p> <p>そのほか、教育推進員の学校訪問や十勝教育局の指導主事が行う訪問等の活用を図り、学校に対してアドバイスをすることで、授業改善への手助けを行い、教員の資質能力の向上を図っている。</p> <p>新たな学習指導要領においては、「情報活用能力」の育成が「学習の基盤となる資質・能力」に位置付けられており、各学校では、児童生徒が分かりやすい授業を実現するとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成できるようICT機器の効果的な活用を図っている。</p> <p>また、音更町教育研究所及び音更町ICT教育推進チームでは、児童生徒に貸与している1人1台端末の学習への更なる活用に向けて、実践的な</p>

意 見	対応状況
<p>とができるか大いに期待されるところであるが、一方では、プログラミング教育を含めて、今後どのように日本の学校教育に根付かせていくのかが極めて重要となることも指摘されている。その意味において、先進校視察についてもリモートなどの活用も含めて是非検討していただきたい。</p>	<p>使用方法や学習指導要領に沿った運用について検討を行い、端末の活用実践例などについて教員向けの研修会を開催するなど、教育活動における積極的な利活用の推進を図っている。</p>
<p>教職員健康対策では、一昨年度策定した「音更町立学校における働き方改革推進プラン」に基づき、教職員の業務改善に努めるとともに、近年はメンタルヘルスの不調に悩む教職員も生じていることから、教職員の健康診断と併せてストレスチェックの実施を継続して進めていただきたい。</p>	<p>教職員健康対策では、各種健康診断・人間ドックのほか、ストレスチェックを継続して実施しており、ストレスチェックの受検率も年々増加している。今後も教職員の心身の健康の保持に努めていく。また、出退勤管理システムを有効に活用し、教員の業務環境を把握するとともに、必要な業務改善に向けた環境整備等につなげていきたい。</p>
<p>教育施設の整備については、老朽化が進んでいる校舎の改修工事等が計画的に進められるとともに、熱中症対策として、一昨年度より3か年計画で保健室へのエアコン設置工事事業の開始や、防災機能を備えた屋外トイレの整備等、児童生徒の安全確保と教育環境の整備が図られている。</p>	<p>教育施設の整備については、「音更町教育施設等長寿命化計画」に基づき、児童生徒の安全確保と教育環境の整備に努めていく。</p>
<p>国際理解教育については、一昨年度より英語指導助手（ALT）を増員して2名としたほか、小学校への外国語専科教員の配置や外部英語講師の派遣が継続されるなど、教員の指導力の向上が図られているが、今後とも、英語指導を受け持つ学級担任教員への比重が軽減される取組を進めていただきたい。</p>	<p>英語指導助手（ALT）については、学校が示す指導計画や学習指導案に基づき、担当教員が行う英語学習を補助することで、教員の指導力向上に寄与している。また、外部サポート講師についても、小学校が実施する外国語活動を補助するため、派遣時間数を維持し、引き続き教員の指導力向上を図っている。</p>
<p>特別支援教育においては、引き続き学習支援員などの配置について可能な限りの予算措置等を期待したい。特に全道的にはいじめ・不登校の背景にある発達障がいやその傾向をもつ児童生徒への対応が求められており、相談支援体制も含めた総合的な対応の充実が求められる。</p>	<p>また、特別支援教育については、小中学校での肢体不自由等の障がいがある児童生徒の学校生活を介助するため、生活介助員の配置を行い、医療的ケアを必要とする児童生徒に対しては看護師を派遣しているほか、通常学級における発達障がいなどにより特別な支援を要する児童生徒に対しては、必要に応じて増員を行いながら、特別支援教育学習支援員を配置し、学習活動や学校生活上においての支援を行っている。また、小学校</p>

意 見	対応状況
<p>信頼される学校づくりについては、家庭・学校・関係機関の日頃からの連携協力体制が重要である。連携をサポートするうえからも、コミュニティスクールの更なる導入に期待したい。</p>	<p>入学前の児童に関する情報を、保育園や認定こども園から提供を受け、保護者と早期に就学・教育相談などの支援を行える体制づくりを行っている。</p>
<p>(社会教育の振興)</p> <p>社会教育に関しては、各種リーダー研修会の中止などコロナ禍の影響による事業の中止が相次いでおり課題が残る。こども姉妹町視察研修については、代替事業を実施し一定の成果を挙げている。為すことによって学ぶ情操教育や健全な心身を育む教育活動の一貫として、他の事業に関しても、規模を縮小し少人数で複数開催、インターネット会議システムを活用した遠隔参加による実施など内容や実施方法の工夫が求められる。</p>	<p>学校と地域とのつながりをより強固となるよう導入した学校運営協議会は、令和3年度に4校増えて6校となった。残りの10校は令和4年度に導入できるよう準備を進めている。地域に根ざした学校運営に向け今後も協力体制を充実していく。</p>
<p>一方、放課後子ども教室の実施に関しては、コロナ禍の影響により実施回数の大幅な減少を余儀なくされたものの、これまで見送ってきた新規開設を実施し、緑阳台、鈴蘭の小学校2校を加えるなど取組の充実が図られた。コロナ禍の中での実施としては慎重にならざるを得ないが、全てを中止や縮小するのではなく、できるところは手厚く取組がされている点は、前向きな教育行政の推進姿勢として評価される。</p>	<p>将来を担う子どもたちの豊かな情操や心身の健やかな成長を図るために、体験学習や社会参加活動など主体的な学習活動を引き続き支援していくと考えている。</p> <p>コロナ禍においては、対象者や実施環境、内容などを勘案し、感染防止対策を徹底しながら、募集人員を制限した小規模での複数回実施やオンラインを活用するなど、学習活動が継続できるよう工夫し進めている。</p>
<p>青少年の健全な育成を図るために、不登校児童生徒や、家庭内不和、及び子育てに不安や悩みを抱えている親が顕在化しつつあるなか、「巡回指導」や「青少年悩み相談」、「家庭教育電話相談」等の対応のあり方を検討し、さまざまな相談窓口を利用できる体制の更なる整備が必要となる。</p>	<p>放課後子ども教室は平成28年度に小学校4校で開設し、令和2年度から緑阳台、鈴蘭の2小学校を、3年度からは新たに木野東小学校を加えた7校で、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に基づいた感染症対策を徹底し、活動内容を制限しながら、実施している。今後もボランティアの育成と内容の更なる充実を図っていきたい。</p>
<p>生涯学習事業については、「00JC オープンカレッジ」や「高校開放講座」は、今後のまちづくり</p>	<p>巡回指導活動は、青少年指導員と地区指導員が連携して街頭における青少年の指導にあたり、非行の未然防止と健全育成に努めている。不審者等に係る通報が大幅に増加する中、出没の抑止と地域ぐるみで子どもの安全確保を図るために取組を強化継続していくことが必要と考えている。</p> <p>相談業務については専用電話を設置し、町HPやタウンページ等に掲載周知しているが、青少年だより「かけ橋」紙面等で相談窓口の利用ツールの周知など青少年の健全育成に係る情報提供を</p>

意 見	対応状況
<p>くり等を進める上で、住民と行政が相互信頼関係を構築し、協働によるまちづくりを推進していくための有効な事業として、今後も継続した取組が期待される。</p>	<p>行い、啓発活動を継続して進めていきたい。生涯学習事業については、地域の貴重な教育資源である帯広大谷短期大学、音更高等学校と共に・連携し、社会環境の変化と多様なニーズに対応した学習プログラムを企画・運営を行い、広く町民に学習機会を提供していくことが必要である。</p>
<p>文化・芸術事業については、優れた文化・芸術に接する機会に触れるための各種事業を開催するとともに、Wi-Fi 環境の整備を図ることで利便性が高まり、町民の文化・芸術に対する更なる意識向上が図られる。小学生の芸術鑑賞会と中学生のための音楽教室も情操教育の一環として重要である。文化センター野外施設の再整備が、町民の憩いの場として新たな価値が見出されることに期待したい。</p>	<p>令和 3 年度の Wi-Fi 整備により、動画サイトの視聴を活用した講座や学習会など、施設利用の幅を広げ、芸術文化活動の活性化につなげていく。芸術鑑賞会は、子どもたちの豊かな心と創造性を育む機会として継続していく必要がある。令和 3 年度に復活したカリヨンや屋外ステージを活用したイベントを開催し、町民が集う新たな賑わいを創出することができた。今後も関係機関と連携し、継続して取り組む。</p>
<p>図書・視聴覚の振興については、近年減少傾向にある図書貸出人件数を改善するための取組がなされている。言語、論理、情緒という人間の成長に欠かせない必須の三要素は、読書を通して身につくと言われている。その意味において、小中学校と連携した学習資料の提供や、中高校生の読書意識の高揚を図るティーンズコーナーを設置する等、読書環境の整備が進められている。また、子ども達の読書をする習慣は、乳児期に親が絵本を読み聞かせる環境や、家庭での読書環境づくりが大きいとされることから、ブックスタート事業やリーディングスタート事業の継続した取組も期待される。今後、WI-Fi 環境を整備することで利便性が向上し、子どもから高齢者まで町民の読書活動が更に高まることに期待したい。</p>	<p>小学生の読書環境整備のための移動文庫や学級文庫を継続し、中高生の読書を推進するためのティーンズコーナーを充実するとともに、今後もブックスタート事業やリーディングスタート事業をはじめとする読書推進のための事業を展開していく。また、令和 3 年度の Wi-Fi 整備に加え、令和 3 年度から令和 4 年度の継続事業として館内に冷房設備を設置し、快適な学習環境、読書環境を整備している。</p>
<p>また、郷土資料の収集・保存・展示事業でも、本町に縁の深い作曲家、伊福部昭の資料展示室が設けられていることは、昨年度、白老町にアイヌ民族の文化復興等に資する国立アイヌ民族博物館がオープンしたことと相まって、伊福部昭の作曲家人生の原点も少年期のアイヌ民族の</p>	<p>郷土資料については、アイヌ民族の資料も含めて積極的に収集保存している。伊福部昭音楽資料室についても、音更にゆかりのある偉大な作曲家として、その存在を町内外に PR するため、定期的に展示を入れ替えるとともに、特別展示などを展開している。</p>

意 見	対応状況
<p>伝承音楽との出会いにあることから、改めてアイヌ民族の優れた文化に触発される機会となり、町民の郷土理解を深める一助となることが期待される。</p> <p>(社会体育の振興)</p> <p>体力づくり、健康づくりの振興に関しては、スポーツライフ、スポーツ教室、体力づくり事業が展開されているが、いずれの事業も新型コロナウイルス感染症の拡大を背景に参加人減少がみられる。また、一部中止のものもあり、特に成人・シニア世代の健康づくりの面からはその影響が懸念される。定期的な運動習慣の定着は壮年期以降の罹患率とも大きな関連のあるものであり、医療や介護への影響があることから教室活動以外の運動習慣の定着も視野に入れた事業展開が期待される。</p> <p>そのほか、本町は運動施設が充実し、さまざまなスポーツに対応した設備が整っているが、整備への要望も多くあることから、計画的な設置・更新が期待される。また、その際には障がい者スポーツを考慮した運動設備の整備を期待したい。公共の運動施設の利用においても障がい者に対する合理的配慮を行うことは行政の責務であり、障がい者と健常者がともに利用できる共用型の運動施設への転換や障がい者スポーツが体験できるように用具等の貸し出しなどの取組にも期待する。</p> <p>今後も継続して、町民利用者の意向の更なる把握に努め、より細かいニーズに対応した体力づくり教室や総合型地域スポーツクラブの育成等、スポーツ振興普及のための事業の充実に取組んでもらいたい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、一部事業を中止としたが、予防対策を講じた上で実施した事業には、参加者が増加しているものもあり、引き続き、コロナ禍の中でも運動機会の提供について、指定管理者と連携協力していく。</p> <p>また、主にシニア世代を対象に健康意識の変容と運動習慣の定着を図るため、新たに健康増進プログラム事業を北海道十勝スカイアーススポーツ株式会社に委託して実施した。今後も年齢や体力に関わらず、誰もが楽しく出来る運動プログラムで運動習慣の改善や食生活の改善を促し、将来的な医療費・介護費の増加を抑制することを目指す。</p> <p>温水プールでは、プールサイドで使用できる車イスを用意し、障がい者が入水する際の利便性を図っている。</p> <p>また、スポーツ課では障がい者スポーツ「ボッチャ」の用具の貸し出しを行っており、子どもから高齢者、障がい者団体まで幅広く利用されている。</p> <p>今後もスポーツ協会や関係団体等と連携を図りながら、新型コロナウイルス感染症対策に十分配慮し、スポーツの普及・振興を進めていく。</p>

## II 学識経験者の意見

帯広大谷短期大学教授 佐藤 英晶

### 1 教育委員会の活動状況

教育委員会の会議の開催状況については、定例会以外にも臨時会を5回開催しているが、定例会の前後に開催していることも多く、持ち回りでの開催となっていることから、会議での説明、審議できるよう努める必要がある。

一方、会議の開催にあたっては各委員に議案・資料等の事前説明を行う、委員相互の意見交換の場の設定、付議案件以外の意見を提案する機会の確保など会議の開催が効率的・効果的になるよう配慮がなされている。

今後も新型コロナウィルス感染症の変異株の感染拡大など不測の事態に備え、より一層、臨機応変な対応が求められるとともに、令和3年度から指摘しているとおりインターネット会議システムを活用した遠隔会議の実施の検討など教育行政の円滑かつ確実な実施に向けた取組が期待される。

### 2 重点的な評価

#### (1) 確かな学力の向上

児童・生徒の学力の確かな向上として、基礎的・基本的な知識及び技能の習得やそれを活用する力を育むことが重要な課題である。令和3年度については、令和2年度は実施できなかった全国学力・学習状況調査が2年ぶりの実施となり、子どもの学力の傾向を把握・分析する取組を実施している。全国学力・学習状況調査の分析により得られた知見を元に課題を整理し、児童・生徒の学力向上に向けた学習指導法の改善や児童・生徒自身の学び方の改善に寄与することが期待される。

令和3年度においても新型コロナウィルス感染症の感染拡大局面が度々あったことなど、児童・生徒を取り巻く学習環境は十全ではなかったことを考慮すると、学力の維持・向上に向けた一層の取組が求められる。特に小学校においては、全国学力・学習状況調査において国語・算数とともに全国・全道平均を下回っており、前回調査である令和元年度との比較でも落ち込みが見られる結果となっていることから、対策を講ずる必要性が認められる。

また、従前より本町においては特別支援教育学習支援員の増員を行い、発達障がい等を抱える児童・生徒の学びの保障に取り組んでいるところであるが、学校教育における合理的配慮の具現化として、今後とも一層の取組が期待される。特に国のGIGAスクール構想に基づき、令和2年度には町内すべての児童・生徒にタブレット端末が配布され、

令和3年度においてはその本格的運用が開始されているところであるが、特別支援教育においては、こうしたICTを活用した学習支援の充実を図っていく必要があると考えられる。その他、学校現場における教育体制の充実は大きな課題の一つであるが、この課題に対し少人数学級実践研究事業等を活用した学習環境の向上として教員の加配などを行っており先述の特別支援教育学習支援員の増員と合わせ教育に係わる人材の充実が図られている。

## (2) 健やかな体の育成

近年は新型コロナウィルス感染症の拡大に伴い外出の機会の減少のみならず、運動の機会の減少も課題の一つとなっている。身体的接触のあるスポーツや団体競技など感染リスクの高いスポーツはもとより、マスク着用での運動には大きな制約が伴っている。学校教育においては、学力の向上だけではなく健やかな体づくりは発達・成長の面からも重要であるが、こうした状況から児童・生徒の運動能力や体力に及ぼす影響が懸念される。健やかな体の育成は生涯発達や生きる力の醸成においても大きな関わりを持ち、特に身体能力の基礎は学童期から青年期にかけ大きく成長し、児童・生徒の健やかな体の育成は生涯にわたり影響を及ぼすことから、その発達・成長を学校教育の中で支えていくことが重要である。

本町においては、体力・運動能力調査を小学校5年生及び中学校2年生を対象に悉皆調査を実施し、児童・生徒の体力・運動能力を分析し、その向上に努めている。また、指導体制も体育専科教員の加配による体育授業の充実を図っている。調査結果からは全ての調査対象の学年、性別において令和元年度全国平均を大きく下回る種目については、その向上が見られ課題への取組の成果がうかがわれる。一方、中学生男女共に50m走、20mシャトルランのスコアが低く、全国平均をやや上回っていた令和元年度と比較しだいかく低下している点が、新たな課題となっている。従前よりこの2種目は小学校の男女共に全国平均を下回っていたことから小中学校全体の課題として捉え、重点的な対策を講じる必要性があると考えられる。今後、これらの分析・課題抽出した結果が組織的な体力向上の取組に反映されることが期待される。

また、令和2年度同様、新型コロナウィルス感染症の感染拡大に伴い、外出機会が減っていることから町民の体力・健康づくりの面での懸念がある。団体での活動に制約がある中、町民一人ひとりの運動習慣の確立に向けた取組を引き続き充実させていく必要があると考えられる。

## (3) 豊かな心の育成

これまで、いじめ・不登校は全国・全道ともに増加傾向にあり、本町においても同様の傾向を示していたが、北海道の調査では令和2年度（令和3年度調査）では、いじめ

の認知件数に関して大幅な減少が見られるものの、逆に不登校は大幅な増加となっている。こうした背景には新型コロナ感染症による学級閉鎖・学年閉鎖など児童・生徒の登校日数の減少があると考えられる。一方、本町の令和3年度の調査では、いじめに関して減少傾向は見られない。不登校については児童・生徒数が減少していく中、増加傾向を示し続けており、対前年度比で約1.4倍、平成29年度との比較では2.4倍強となっており、不登校の児童・生徒への支援は喫緊の課題となっているといえる。

「いじめ」に関してはその定義がいじめ防止対策推進法の施行以降は、該当する行為を受けた児童等が心身の苦痛を感じる場合を「いじめ」と認知することとされている。こうした定義の変更に伴い、アンケート調査の実施が同時に児童・生徒のみならず教員も含めた学校関係者にとっても「いじめ」に対する正しい理解を確認する機会ともなっている。全国的にはまだまだこうした「いじめ」の定義が浸透しておらず、極端にいじめの認知件数の少ない地域も存在することから、本町においてもより一層の「いじめ」に対する正しい理解の浸透に向けた取組が求められる。

また、いじめへの対応として、学校に対する支援や相談体制の充実を図っており、スクールソーシャルワーカーとして心の教室相談員が配置されているが、このスクールソーシャルワーカーについては、市町村教委で配置している自治体は道内でも少数であることから先進的な取組として評価される。今後は、要援助案件の増加や深刻化に応じ勤務時間数の確保や人員の増員等、必要に応じた対応の迅速な実施が期待される。さらにはスクールソーシャルワーカーが要対協や教育支援委員会など様々な場に参加し、各機関・関係者との連携体制が一層強固なものになっていくことが期待される。

その他、不登校に関しては、ふれあい教室（令和4年度より適応指導教室から教育支援センターに名称変更）の拡充がなされている点が評価される。不登校の児童・生徒は年々増加しているが、本町の人口分布からは市街地南部に人口が集中しており、現在の市街地の郊外北部の立地的課題や不登校の児童・生徒数の増加に対し通級者数が低位持続しているという課題に対して、現在の施設設備や環境面でのメリット、また、市街地から離れているからこそ他者の目を気にせず通える良さも残しつつ、市街地に増設することで児童・生徒がいずれかを選択できるよう配慮されている。今後も不登校の児童・生徒の増加に応じた対策を継続的に強化・充実していくことが望まれる。

### 3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

#### （1）文教対策

教員研修については、コロナ禍の中で研修会の中止を余儀なくされ、令和3年度も参加し難い状況にあったものの、校内研修実践指定校事業の推進を通じて学校内での創意工夫による研修機会の確保が行われている。また、リモート開催で実施される研修等への参加など、制約の多い中で研修の機会を確保できている。

国の進める GIGA スクール構想に沿った学校現場の IT 化が進んできており、授業への活用のみならず、研修会への参加、北海道教育委員会が行っているスクールネットの活用など多岐にわたる IT 化への対応が求められる。また、IT 化に関しては教職員や児童・生徒に一人一台のタブレット端末の整備が行われたことから、これらを活用した授業の展開だけではなく、一人ひとりにあった学習コンテンツの配信など、より高度な IT 機器の活用に向けた取組が期待される。

その他、特別支援教育においては引き続き特別支援教育学習支援員などの配置について可能な限りの予算措置等を期待したい。特に全道的にはいじめ・不登校の背景にある発達障がいやその傾向をもつ児童・生徒への対応が求められており、相談支援体制も含めた総合的な対応の充実が求められる。

## (2) 社会教育の振興

社会教育に関しては、青少年教育事業として行っている研修会の一部中止などコロナ禍の影響が見られるものの、令和 2 年度に比べ実施できている。令和 2 年度に引き続きこども姉妹町視察研修については、代替事業を実施となっているが、絵画交流作品展の他に新たにオンライン交流会を実施し、令和 2 年度の課題であったインターネット会議システムを活用した遠隔参加による実施などが取り組まれている。

一方、青少年対策として行われている放課後子ども教室の実施に関しては、令和 3 年度も令和 2 年度と同様にコロナ禍の影響により実施回数の大幅な減少を余儀なくされたものの、令和 2 年度の緑陽台、鈴蘭の小学校 2 校に加え、令和 3 年度は木野東小学校を追加し開設校の増を図り取組の充実が図られた。コロナ禍の中での実施としては慎重にならざるを得ないところであるが、単に縮小や中止するだけではなく、新規開設校を年々増やしてきている点は、前向きな姿勢として評価される。

## (3) 社会体育の振興

体力づくり、健康づくりの振興に関しては、スポーツライフ、スポーツ教室、体力づくり教室などが展開されているが、いずれの事業も新型コロナウィルス感染症の影響拡大のため一部中止となっている。そのため、長期にわたる参加機会の減少は、成人・シニア世代の健康づくりの面への影響が懸念される。特に定期的な運動習慣の定着は壮年期以降の罹患率とも大きな関連のあるものであり、単に運動面だけではなく、外出の機会として他者との交流といった社会参加の側面での効果が高い事業であることから、その中止等による医療や介護への影響が懸念される。

その他、令和 3 年度も指摘しているところであるが、本町は運動施設が充実し様々なスポーツに対応した設備が整っているが、運動施設整備への要望も多くあることから、計画的な運動施設の設置・更新が期待される。また、その際には障がい者スポーツを考

慮した運動設備の整備を期待したい。公共の運動施設の利用においても障がい者に対する合理的配慮を行うことは行政の責務であることから、運動施設のバリアフリー化をすすめ障がい者と健常者がともに利用できる共用型の運動施設への転換や様々な障がい者スポーツが体験できるよう用具等の貸し出しなどの取組の充実にも期待したい。

## 元中学校校長 堀 光 生

### 1 教育委員会の活動状況

教育行政執行方針に基づき、音更町教育大綱の2本の柱である「子どもの教育」と「生涯学習」の充実・発展に向けて、各種の事業や施策が教育委員会会議を経て組織的・機動的に推進されていることに対して評価したい。

令和3年度で3年度目を迎えてる新型コロナウイルス感染症の猛威の終息には、相応の時間を要することが指摘されている今日の社会では、豊かな人間性と健やかな体を育みながら社会で生きる力を一人ひとりの子ども達に育ませるための対策や、新たな教育施策の推進が求められている。

こうした中で、教育委員会会議では、委員相互の意思疎通を図るための会議の工夫がなされ、活性化が図られている。また、教育長、教育委員による学校訪問を通して、学力・体力向上の取組や、いじめや不登校の状況等について、各学校の管理職及び教職員と意見交換が行われていることは、教育行政と学校現場との距離感を縮める機能が果たされている。

教育委員の小中学校等の訪問、及び研修会等の参加については、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施されたが、今後とも、教育を巡る現状や課題を把握しながら情報提供するための工夫した取組に期待したい。

### 2 重点的な評価

#### (1) 確かな学力の向上

子どもたちの確かな学力の向上に向けては、多面的な児童・生徒理解の促進を図りながら、基礎的・基本的な知識や技能の理解度・定着度の向上、及びそれらを活用する力を身につけるためのきめ細かな教育の推進が必要である。そのために、35人以下学級の編成とともに、各種事業を活用した教員の加配や町費負担教諭・学習支援員を増員配置するなどして、学習環境の向上を図り、個に応じたきめ細かな学習指導の充実に向けた取組が行われている。

一方、新型コロナウイルス感染症対策の継続に伴い、子ども達を取り巻く教育環境は大きく変化している。こうしたことから、学校現場においては、さまざまなストレスが及ぼす子ども達の発達への影響を考慮し、子ども達のレジリエンスの強化を図りながら教育活動を進めていくことが重要となる。

学力の向上については、令和2年度はコロナ禍の影響で中止となり2年ぶりに実施された「全国学力・学習状況調査」の音更町教育研究所による調査結果の分析が行われ、各学校における取組改善の方策が示されている。

それによると、小学6年生の学力は、国語・算数ともに、全国・全道平均を下回る結

果となっている。中学3年生では、国語・数学ともに、令和元年に続き全国・全道平均を上回る結果となっている。一方、領域別に見た場合、小学6年生の国語では、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」が、どれも低い結果となっている。算数も全領域で低い結果となっている。中学3年生の国語では、「読むこと」が、全国・全道の平均より低い結果となっているが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全国・全道の平均を上回る結果となっている。数学では、「数と式」「関数」が全国平均を若干上回り、「図形」は全国平均をはるかに上回る結果となっている。「資料の活用」は、全国平均を僅かに下回る結果となっている。問題別に見た場合、小学6年生の国語では、「適切な語句の使い方を選択する問題」の正答率が高く、「要約する問題」の正答率が低い結果となっている。算数では、「棒グラフから数量を読み取る問題」の正答率が高く、「図形を組み合わせた面積の求め方と答えを解く問題」の正答率が低い結果となっている。中学3年生の国語では、「記述式の問題」の正答率が低い結果となっている。数学では、「図形の性質を数学的に表現する問題」の正答率がはるかに高く、「整式の加法と減法の計算をする問題」の正答率は僅かに低い結果となっている。

更なる学力向上に向けた取組を考えた時、各学校現場においては、STEAM教育を取り入れた発見的な学びや問題解決的な学び、体験的な学び等を通して、児童・生徒一人ひとりの内発的動機付けを図る学習指導を進めるなど、個に応じた学びの充実を目指した授業改善の推進に期待したい。また、小学校においては、引き続き「家庭学習の手引き」などを活用しての家庭との連携の強化が求められる。

## (2) 健やかな体の育成

生涯にわたって心身ともに健やかに生きるための基盤となる体力の維持向上に資する指導力向上の取組として、7年前より毎年開催されてきた音更町教育研究所主催の研修会は、新型コロナウイルス感染症対策のため令和3年度も開催できなかった。「体力・運動能力調査」も、全国調査がなかったために令和元年度との比較を余儀なくされたが、その結果分析をもとにした考察を示すとともに、「音更町の子どもの体力と今後の取組」を発行するなどして、学校の支援に努めている。各学校においては、本資料等を活かしながら体育科の授業改善や体育的行事の工夫が図られている。

小学5年生と中学2年生を対象に実施されている「体力・運動能力調査」結果によると、小学5年生男子・女子ともに、体力合計点が令和元年度に比べ、全国・音更町平均を上回る結果となった。中学2年生は、令和2年度に持久走を実施していないため、令和元年度の体力合計点と比較はできないが、男女ともに多くの種目で全国平均を下回り、音更町平均は上回る結果となった。

課題の残る種目について、音更町教育研究所の「音更町の子どもの体力と今後の取組」

の分析によると、小学生男子では「50m走」、女子では「50m走」「20mシャトルラン」「長座体前屈」が、そして中学校男子では「20mシャトルラン」「長座体前屈」「50m走」、女子では「握力」「50m走」「20mシャトルラン」であることを指摘し、それぞれの課題の向上を目指した指導の充実を求めている。

各学校においては、運動を楽しむことができる授業づくりの推進を図るとともに、児童・生徒に健康寿命の基礎づくりの大切さを意識化させる環境整備を、家庭との連携や地域の人材資源の活用を図りながら進めることが期待される。

一方、近年、従来からの教科書、資料集、ノート、筆記用具等に加えて、情報端末の活用環境の増加に伴い、小学生のランドセルや中学生の鞄の重量が従来と比べて重くなっていることと共に、子ども達の視力が近視傾向にあることが指摘されている。これらの実態も含めて、検証を進めていただきたい。

食育に関しては、自校給食の特色を最大限に生かした「おとづけ給食」を通して、地産地消や地場産品の理解を深めさせるなど、指導の充実が図られている。一方、食物アレルギーを持つ児童生徒への対応では、家庭との緻密な連携が欠かせない。

安全・安心な学校給食の提供と食育指導の充実強化を図るとともに健やかな体の育成に関わる情報提供も不可欠である。

### (3) 豊かな心の育成

いじめ対策の取組として、「音更町いじめ防止基本方針」に基づき令和3年に実施した「いじめに関する実態調査」では、4月以降に「嫌な思いをした」と回答した小学生が528件、中学生が56件あり、その中で今も「嫌な思いをしている」と回答した小学生が225件、中学生が20件となっている。嫌な思いをした際の相談相手の割合は、小学生は「父や母」、中学生は「友人」が一番多く、2番目が小学1～2年生が「学校の先生」で、小学3～6年生が「友人」中学生が「父や母」で、3番目が小学1～2年生が「ともだち」で、小学3～6年生と中学生が「学校の先生」となっている。

また、「誰にも相談しない」と回答した小・中学生が一定数存在し、その割合が小学生高学年と中学生では増えている。

いじめ問題は、教育上の最重要課題の一つとして位置づけられ、相談体制についても、心の教室相談員・教育推進員・学校教育相談員のほか、北海道教育委員会の活用事業に基づきスクールカウンセラーが配置されるなど、いじめの未然防止や早期発見・早期解消に向けた取組の充実が図られている。学校現場においても、道徳教育の中で「いじめ問題」を題材に取り上げるなど、きめ細かな対策が講じられている。しかし、「いじめ問題」以外にも、「LGBTQ」等の悩みや不安を抱えていても誰にも相談できない児童・生徒が一定数いることを考えると、様々な相談窓口の利用ツールを周知させることが重要である。公的な人権擁護機関を活用した「人権教室」開催の取組を進めることも有効な

手立てとして検討していく必要がある。

その一方で、「いじめ根絶」の難しさが、アンケート調査の中からも垣間見られる。「いじめについてどう考えているか」を問う自由記載欄の中で、一部の児童生徒が述べていることに象徴されている通り、「いじめはどんな理由があつても許されないこととは思わない」と回答した小学1～2年生の割合が3.2%(24人)、小学3～6年生の割合が4.5%(73人)、中学生が1.8%(25人)となっている。

コロナ禍の中にあって、大人社会の差別や偏見が改めて指摘されている今日、保護者との更なる連携を視野に入れ、人権に特化したPTA研修等の取組が求められる。

不登校の状況については、令和2年度に比べて小学生、中学生共に増加傾向にあるが、令和3年度新たに適応指導教室の柳町教室が開設されるなど、支援体制の充実が図られている。不登校の要因や背景は、近年、複雑・多岐にわたっており、その解決を図るためにには、家庭・学校・関係機関の連携を通して、個に応じた情報の共有化に努める必要がある。児童生徒本人及び家族の悩みに寄り添えるサポート体制の更なる充実に期待したい。また、ひとり親家庭の中でも特に母子家庭の貧困問題と不登校との関わりが指摘されている今日、ヤングケアラーの実態についても継続して検証を進めていただきたい。

### 3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

#### (1) 文教対策

教職員研修については、教員の資質向上を図るうえでの有効な施策として、今後ともさまざまなツールを活用した研修会の開催を継続・拡充していただきたい。

学校教育には、令和2年度から小学校、令和3年度から中学校と順次、新学習指導要領が全面実施となった。Society5.0や「持続可能な開発目標」(SDGs)などが意識され、子ども達が主体的に問題・課題を解決していく「生きる力」を身に着けることが目指されている。GIGAスクール構想も2年目を迎え、本町の学校教育においても、子ども達が、基礎的な学力や情報活用能力の習得を目指して、「理数探求」や「総合的な学習の時間」等において、問題発見・解決的な学習活動を進める中で本格的な運用が開始されている。1人1台の端末環境を活かした授業を通して、児童・生徒が、公正に個別最適化された学びの実現に向けて、どのような資質・能力を育成することができるか大いに期待されるところである。一方では、児童・生徒一人ひとりの興味や関心を引き出すために、多様な学びの場を提供する教育をどのように質的に向上させ根付かせていくのかが、極めて重要なことも指摘されている。また、継続した課題としては、SNSでのいじめや個人情報の流失等が挙げられる。その意味において、ICTとの正しい向き合い方や使い方の指導も含めたデジタル危機管理対策について、リモートやweb研修等の活用も含めて是非検討していただきたい。

教職員健康対策では、「音更町立学校における働き方改革推進プラン（第2期）」に基

づき、教職員の業務改善が進められている。近年は、メンタルヘルスの不調に悩む教職員が生じていることから、教職員の健康診断と併せてストレスチェックの実施が継続されているが、HSP チェックの実施も検討していただきたい。

教育施設の整備については、老朽化が進んでいる校舎の改修工事等が計画的に進められているとともに、熱中症対策として、令和元年度より 3か年計画で保健室へのエアコン設置工事事業の開始や、防災機能を備えた屋外トイレの整備等、児童生徒の安全確保と教育環境の整備が図られている。

情報教育については、ICT 教育の充実に資するための ICT 機器の整備が計画的に進められている。

国際理解教育については、令和元年度より英語指導助手（ALT）を増員して 2名としたほか、町内全ての小学校へ外部英語講師の派遣が継続されるなど、教員の指導力の向上が図られているが、今後とも、英語指導を受け持つ学級担任教員への比重が軽減される取組を継続して進めていただきたい。

特別支援教育については、これまで本町独自に生活介助員や学習支援員等の増員配置を行ってきているところであるが、障がいの重度化や重複化が進む中で、令和元年度から継続して看護師を派遣するなど、支援体制の整備が進められている。

信頼される学校づくりについては、家庭・学校・関係機関の日頃からの連携協力体制が重要である。駒場中学校、駒場小学校、下士幌小学校、西中音更小学校、東士狩小学校、東士幌小学校では、「地域学校協働活動」をコミュニティ・スクールと一体的に推進する PDCA サイクルの確立に基づいた連携協力体制の整備が進められている。連携をサポートするうえからも、更なる他校への導入に期待したい。

## （2）社会教育の振興

青少年健全育成事業については、教育委員会が主催する「こども体験隊」、「夏期・冬期リーダー研修会」、「国際交流のつどい」、「小中学生のためのものづくり教室」等のさまざまな体験的な活動は、為すことによって学ぶ情操教育や健全な心身を育む教育活動の一環として、今後も継続した取組が期待される。

市街地の小学校 7 校において引き続き開設される「放課後こども教室」は、児童の自主性や社会性・創造性を養うための居場所づくりとして更なる充実が期待される。

青少年の健全な育成を図るためにには、不登校児童生徒や、家庭内不和、及び子育てに不安や悩みを抱えている親が顕在化しつつあるなか、「巡回指導」や「青少年悩み相談」、「家庭教育電話相談」等の対応のあり方を検討し、さまざまな相談窓口を利用できる支援体制の充実整備が必要となる。

生涯学習事業については、「幼児家庭教育学級」、「女性ライフスクール」、「高齢者学級・大学・大学院」、「OOJC オープンカレッジ」や「音更高校開放講座」は、今後のまちづ

くり等を進める上で、住民と行政が相互信頼関係を構築し、協働によるまちづくりを推進していくための有効な事業として、今後も継続した取組が期待される。また、郷土の歴史と文化の学びの充実を図るため、郷土資料室の整備が進められている。

文化・芸術事業については、優れた文化・芸術に接する機会に触れるための各種事業の開催は、心豊かで潤いのある地域社会を形成するうえで重要である。小中学生のための芸術鑑賞会も情操教育の一環として重要である。町民が主体的に芸術文化活動に関わることのできる環境づくりと、文化センター野外施設の再整備が、町民の憩いの場として新たな価値が見出されていくことに期待したい。

図書・視聴覚の振興については、近年減少傾向にある図書貸出人数を改善するための取組がなされている。言語、論理、情緒という人間の成長に欠かせない必須の三要素は、読書を通して身につくと言われている。その意味において、小中学校と連携した学習資料の提供や、職場体験学習等を効果的に活用した中高校生の読書意識の高揚を図るティーンズコーナーを設置するなど、読書環境の整備が進められている。また、子ども達の読書をする習慣は、乳幼児期に親が絵本を読み聞かせる環境や、家庭での読書環境づくりが大きいとされることから、10か月児と2歳児対象のブックスタート事業や新入学児童対象のリーディングスタート事業の継続した取組も期待される。今後、Wi-Fi環境を整備することで利便性が向上し、子どもから高齢者まで町民の読書活動が更に高まることに期待したい。また、郷土資料の収集・保存・展示事業でも、本町に縁の深い作曲家、伊福部昭の資料展示室が設けられ、定期的に特別展示を開催するなどしていることにより、町民の郷土理解を深める一助となっている。

### (3) 社会体育の振興

近年、少子高齢化傾向が加速している社会にあって、健康維持と人格陶冶に資する生涯体育活動の推進は重要である。

「体力づくり・健康づくり振興」や「施設利用状況」については、幼児から高齢者まで幅広い年代層の多くの町民が、各種目別団体主催の活動や、それぞれの体力づくりのニーズに応じた各種教室に参加し、各種施設を利用している状況が伺える。特に総合体育馆と温水プールでは、その傾向が顕著であり利用頻度は高い。この要因には、指定管理者制度に加えて、地域おこし協力隊やスポーツ協会のほか包括的連携協定によるスポーツ企業等と連携した事業推進の成果が着実に表れてきていることが考えられる。

今後も、町民利用者の意向の更なる把握に努めるとともに、異年齢で集える体育活動の推進や総合型地域スポーツクラブの育成等、スポーツ振興普及のための事業の充実に期待したい。